

秦乃細集記

二

ヲ多 9
669
2



門 79
義
卷



右支冊名一尾通尚老國三位仰わらふ才也並書部
の
こ
と
を
し
る
と
ん

延寶九年辛酉年夏之は書寫之早

堀河也

寶永七庚寅年十月廿一日

安也
五利三本

一 ぬきぬき合らりあいのあつたあつた
 一 障子のあつたあつたあつたあつた
 一 壁あつたあつたあつたあつたあつた
 一 内障子あつたあつたあつたあつたあつた
 一 白きあつたあつたあつたあつたあつた
 一 通りの障子あつたあつたあつたあつたあつた
 一 ときあつたあつたあつたあつたあつた
 一 ころのあつたあつたあつたあつたあつた
 一 板あつたあつたあつたあつたあつた

一 一尾のあつたあつたあつたあつたあつた
 つけがあつたあつたあつたあつたあつた

かえ書

一 一条あつたあつたあつたあつたあつた
 一 二条あつたあつたあつたあつたあつた
 一 三条あつたあつたあつたあつたあつた
 一 四角あつたあつたあつたあつたあつた
 一 五角あつたあつたあつたあつたあつた
 一 六角あつたあつたあつたあつたあつた
 一 七角あつたあつたあつたあつたあつた
 一 八角あつたあつたあつたあつたあつた
 一 九角あつたあつたあつたあつたあつた
 一 十角あつたあつたあつたあつたあつた

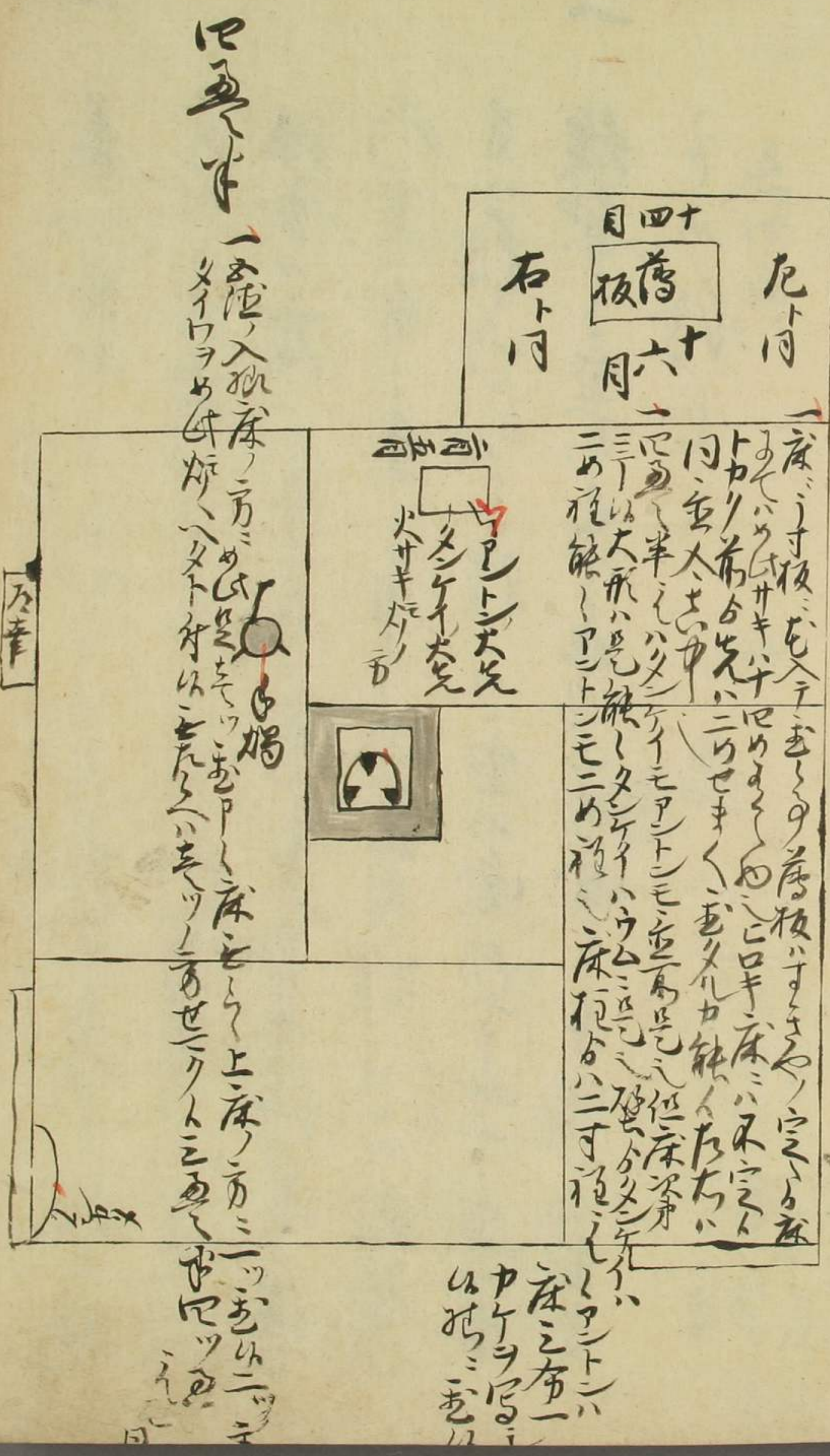
そより或す幅の五寸下板の八寸あるは角の釣櫃
の五分の四寸の釣櫃の五寸の角の二寸の角の
さきのはし釣櫃の角の五分の角の十二寸の
中へ入るる入るる八分は他本は斗の
もこの入るる入るる能く二寸の板の七寸の
二尺二寸の板の七寸の

一 板の角の五寸の厚の薄板の五寸の厚の板の
六寸の厚の板の五寸の厚の板の十四寸の厚の板の
五寸の厚の板の五寸の厚の板の五寸の厚の板の
遠くはとく先づ二月せましく五寸の厚の板の
五寸の厚の板の

一 五寸の厚の板の五寸の厚の板の五寸の厚の板の
五寸の厚の板の五寸の厚の板の五寸の厚の板の
五寸の厚の板の五寸の厚の板の五寸の厚の板の
五寸の厚の板の五寸の厚の板の五寸の厚の板の

一 襦もよきながらくねるさし人型に成る
 床より前よりさし人型に成る
 捨身し心の結成の床
 結成し心の結成の床
 一 子婿の重なる之し心も捨身し前より
 茶碗の内も見、おの不様支能し
 一 倉の掃口より倉柄板をテがフ子下柄板をスキ合ふ種に能は
 口より口よりあふさる結成の倉柄板をテがフ子下柄板をスキ合ふ種に能は
 口より口よりあふさる結成の倉柄板をテがフ子下柄板をスキ合ふ種に能は

細集記方二



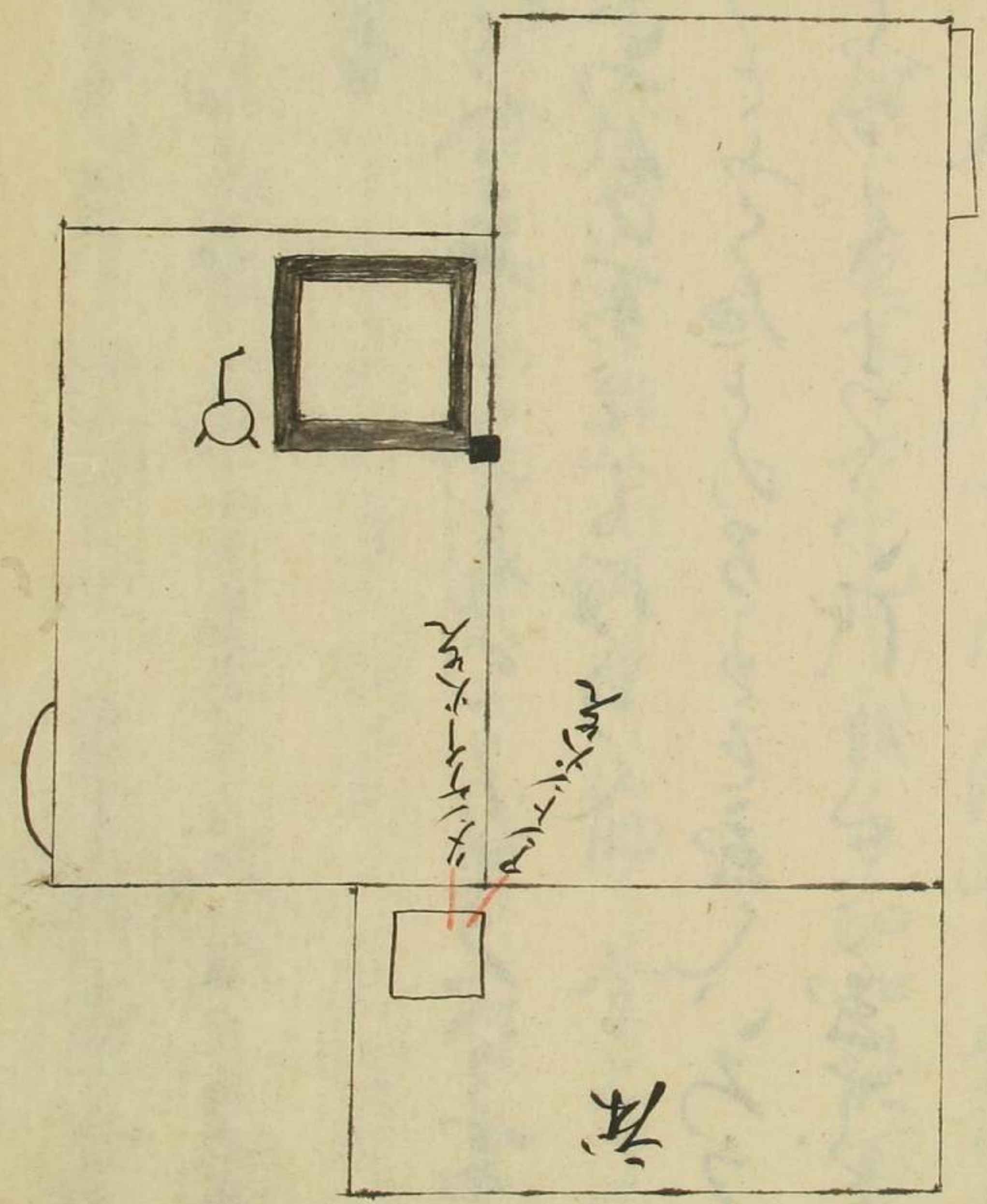
口より

一 倉の掃口より倉柄板をテがフ子下柄板をスキ合ふ種に能は
 口より口よりあふさる結成の倉柄板をテがフ子下柄板をスキ合ふ種に能は
 口より口よりあふさる結成の倉柄板をテがフ子下柄板をスキ合ふ種に能は

万幸

一 是也半二床より一床ありは海島ノ根葉
 之切焼も床ノ内ニ並ニ揚子ノ方前前ノ
 二月翌ノ方ハ三月程至ル
 一 子燭ハ釜と小瓶ノ方ニ並ニ

是也半



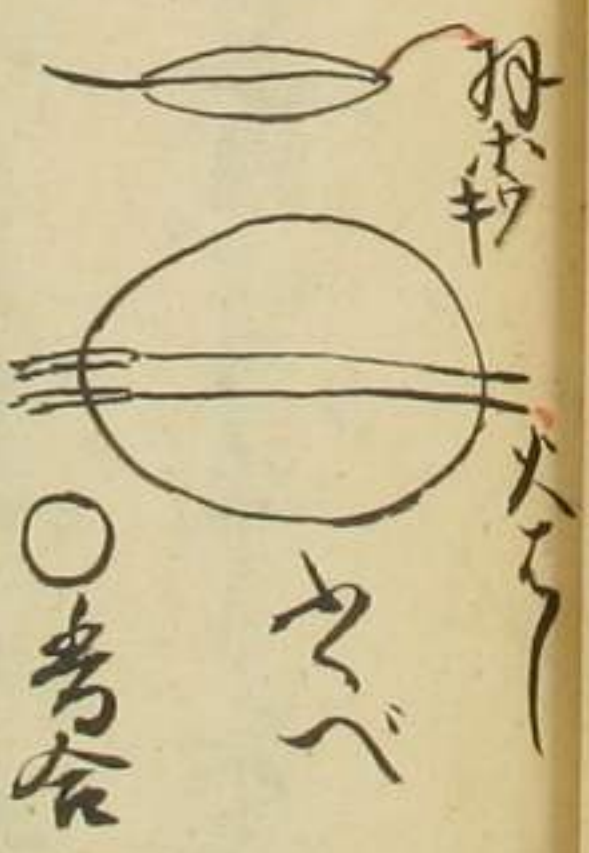
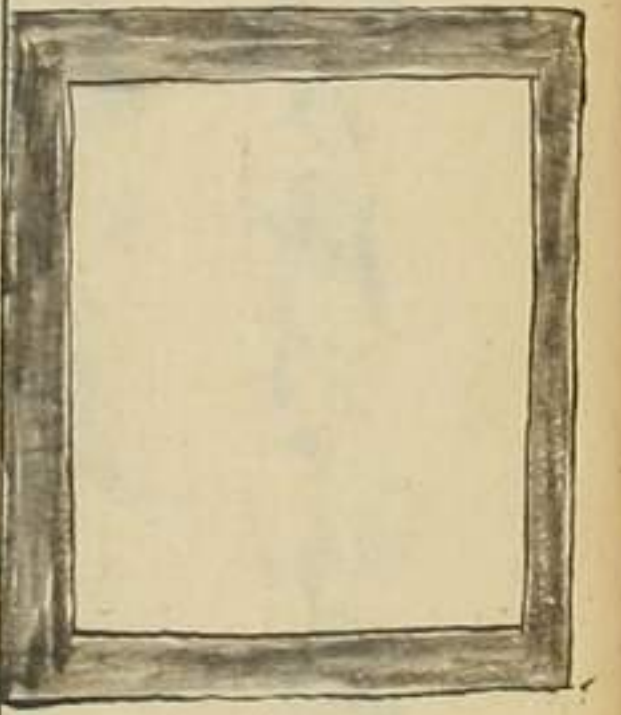
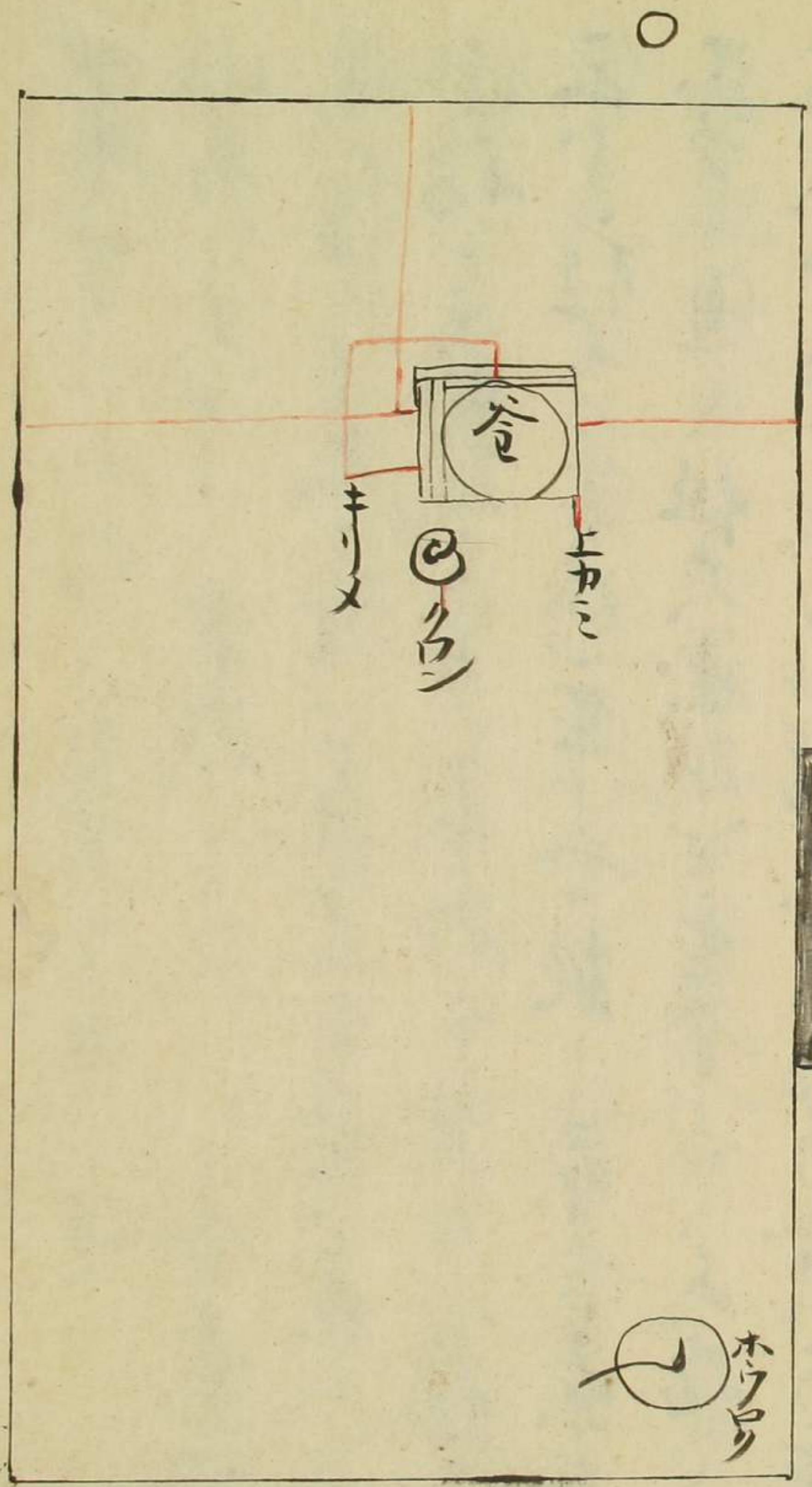
一 世無き中より炭を重く何れもくらの重なる海客に
この重とすねく危く物いよこすこ入りよか海客
く重なる

一 香合のやくも右にづれあがりも入るに
重く是にづれの重くも何れ

一 お市灯とさる屋よのりよと重くころこ
くそあああくころこいけい...
あそ長く

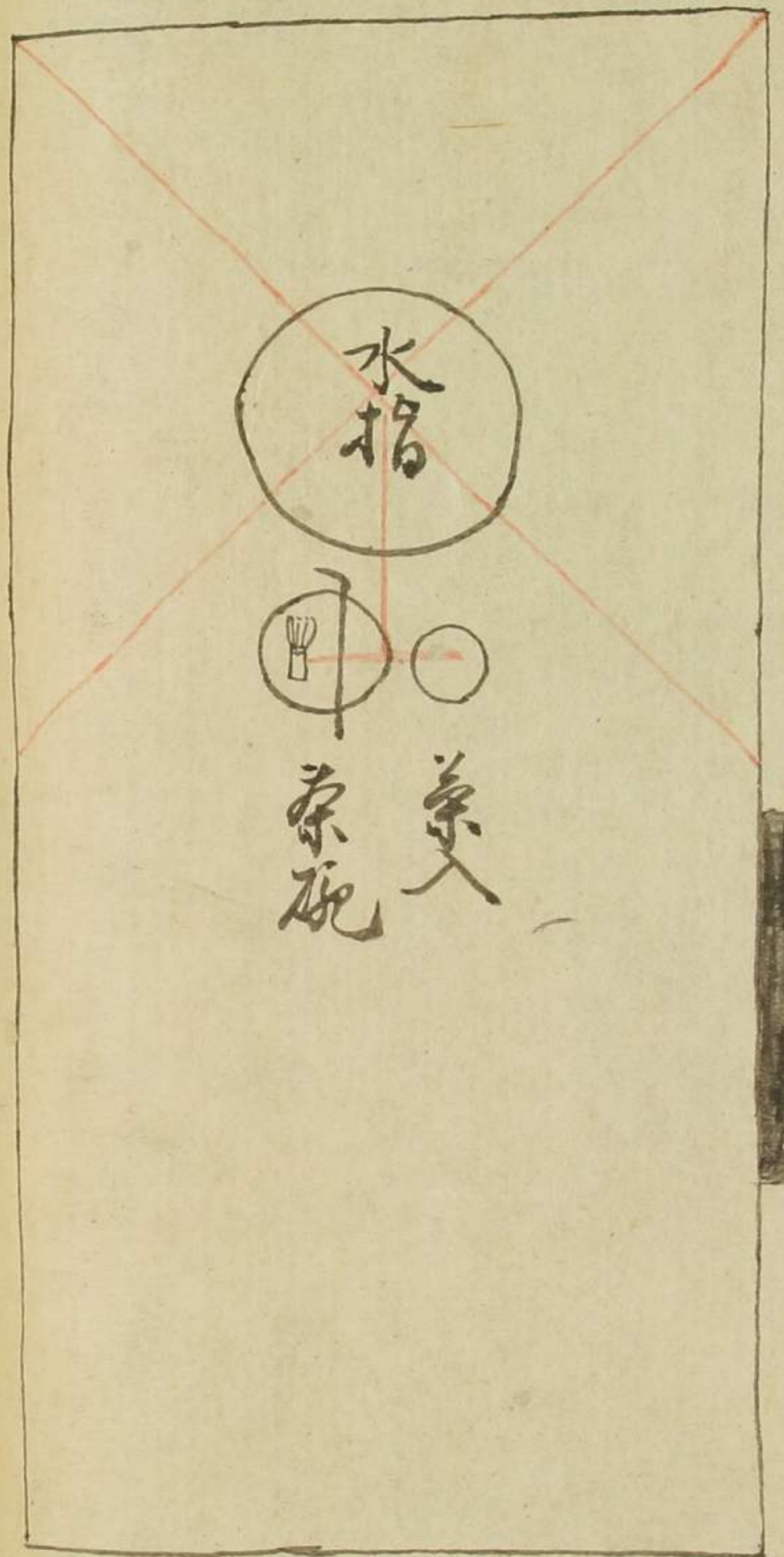
一 灰母ろろく娘と又炭を重く何れ海客に重なる
灰とまゝ何れ重なるをこけい...
この重

一 登り重なるたはし重なるこ上仲筋...
乃た方と合え前も重なるこ上仲筋...
切月海客のこあの方...
せり重なる...
一 積りあけ紙のすこ...
この重なる



④

一 續くらのりめを前にも五枚
 一 かんきりの並布を定し、海り丸角のちよん
 ちやん底を取しよ

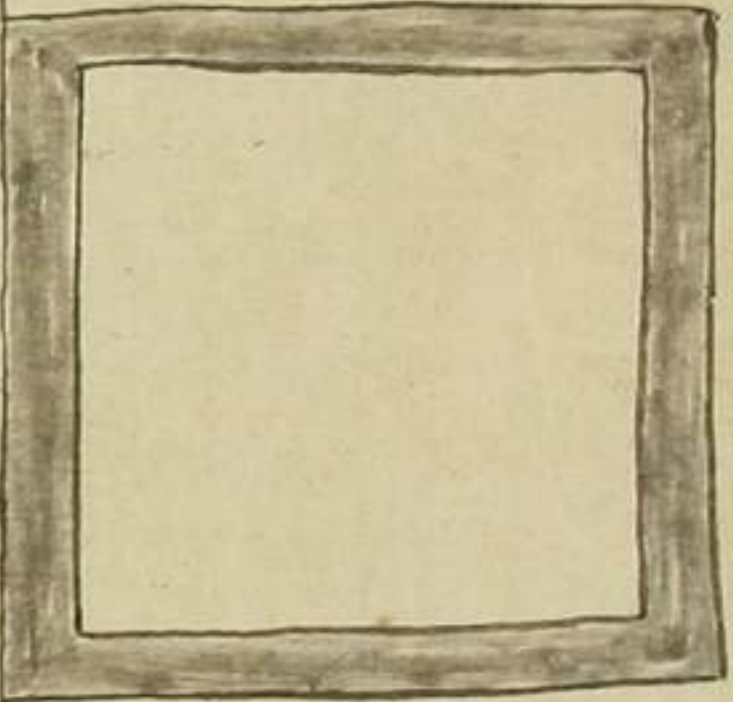


二 此處に茶の茶立し何處茶合のつらに

一 水は湯瓶の方へ置く。或月瓶しんの
 横に置く。瓶先は右へ向かし、
 湯瓶の口は左へ向かし、湯瓶の
 口は右へ向かし、湯瓶の口は
 右へ向かし、湯瓶の口は

一 蓋の重は、湯瓶の口は右へ向かし、
 湯瓶の口は左へ向かし、湯瓶の口は
 右へ向かし、湯瓶の口は左へ向かし、
 湯瓶の口は右へ向かし、湯瓶の口は

七に五



水指

茶入
茶碗

一 七に五のころ茶をいれ茶碗に茶をいれ

冷茶のころのころ

一 水指にたうこの位を茶をいれ茶碗に茶をいれ

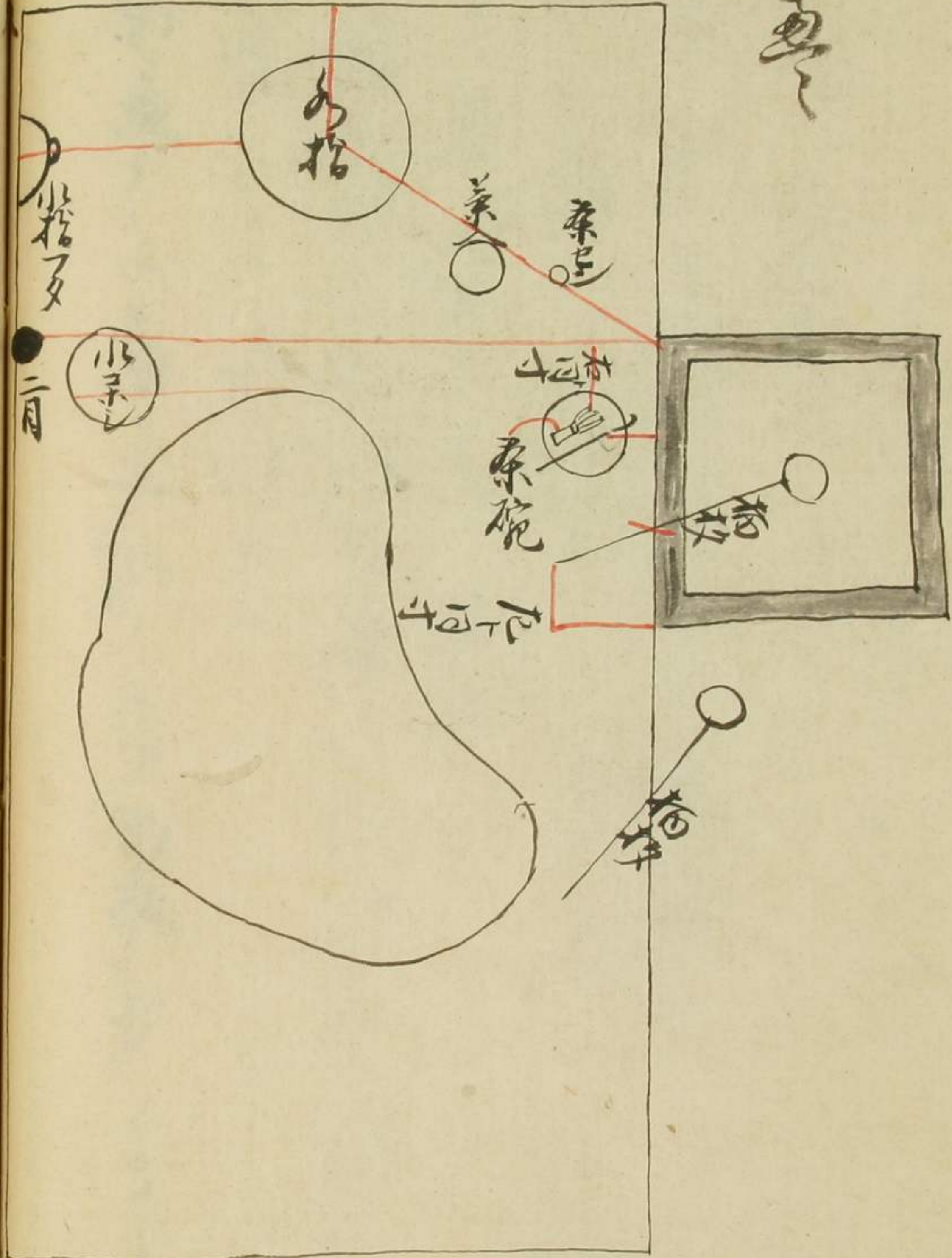
合ら茶をいれ茶碗に茶をいれ

一 茶碗に茶をいれ茶碗に茶をいれ

茶碗に茶をいれ茶碗に茶をいれ

一 水指に茶碗のころ

長四角

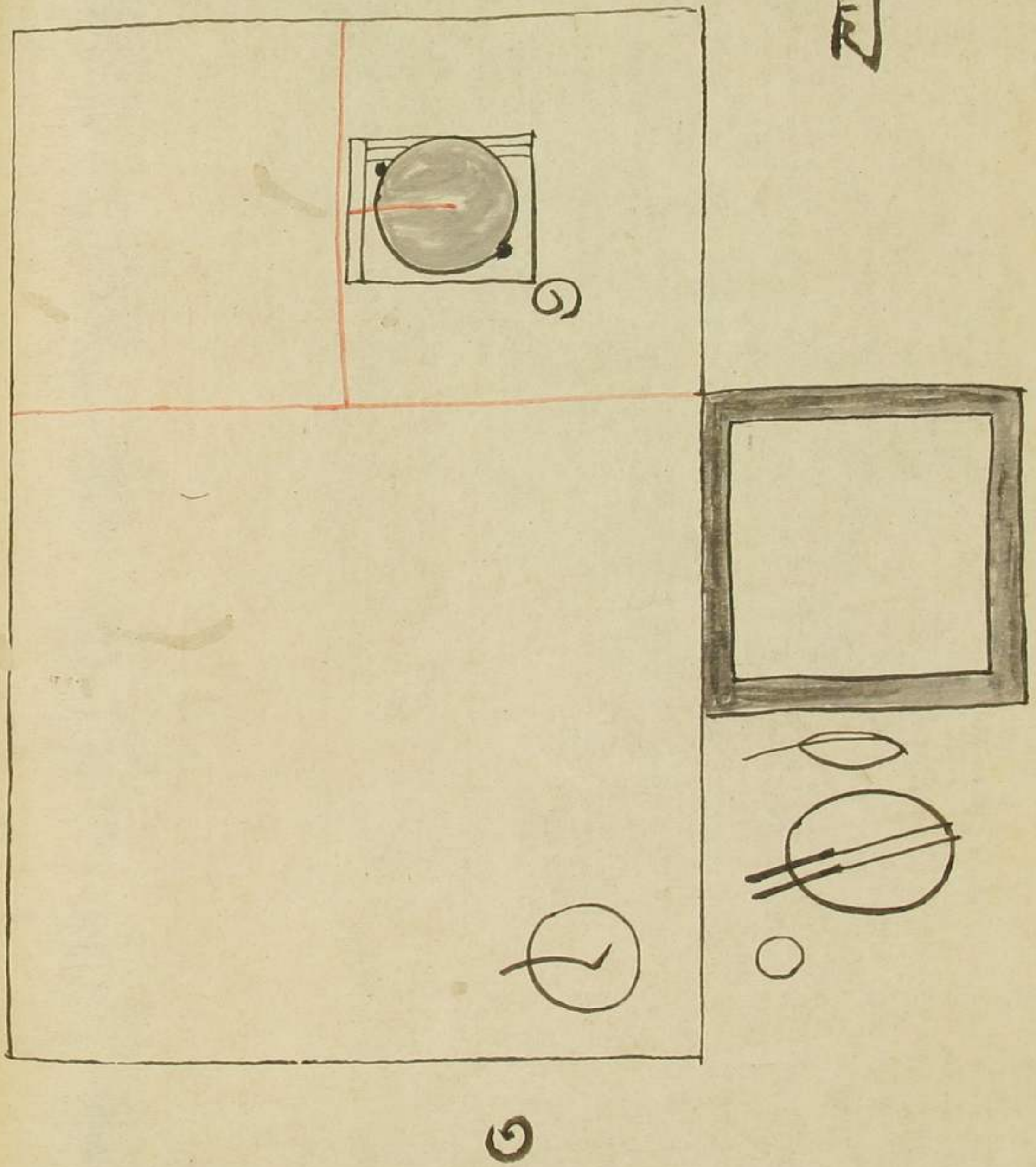


一 三島、長月、この上、皮、シ、重、何、物、く、危、の、重、可

右、同、

一 谷、シ、重、又、シ、と、也、重、シ、と、

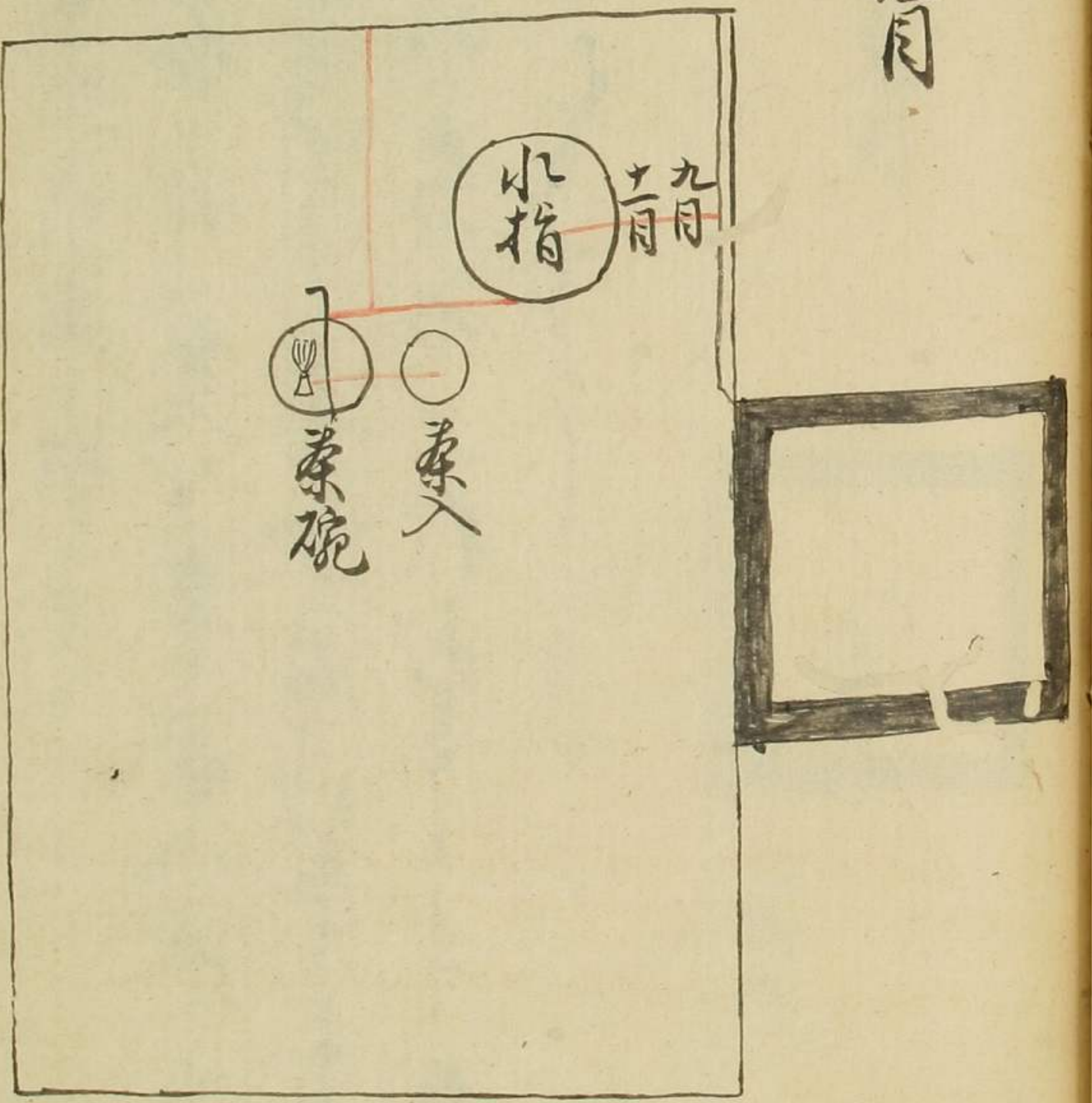
二巻三日月



一 二巻三日月重合しより水指はねめ後居り方
 居りよの月、重以下、細き指は上月、も重
 先おの出櫃と湯也しれ上沖、重く茶碗茶
 入の朱川のよく重く、上沖すら、茶いん
 ともども合らる三月まで茶入と重し先おの
 茶碗し先よりとと少指し前よりつれの通合
 へ、重し茶入の茶碗し上沖通りし
 一 大茶碗し何れ重し中とともすすして少茶入

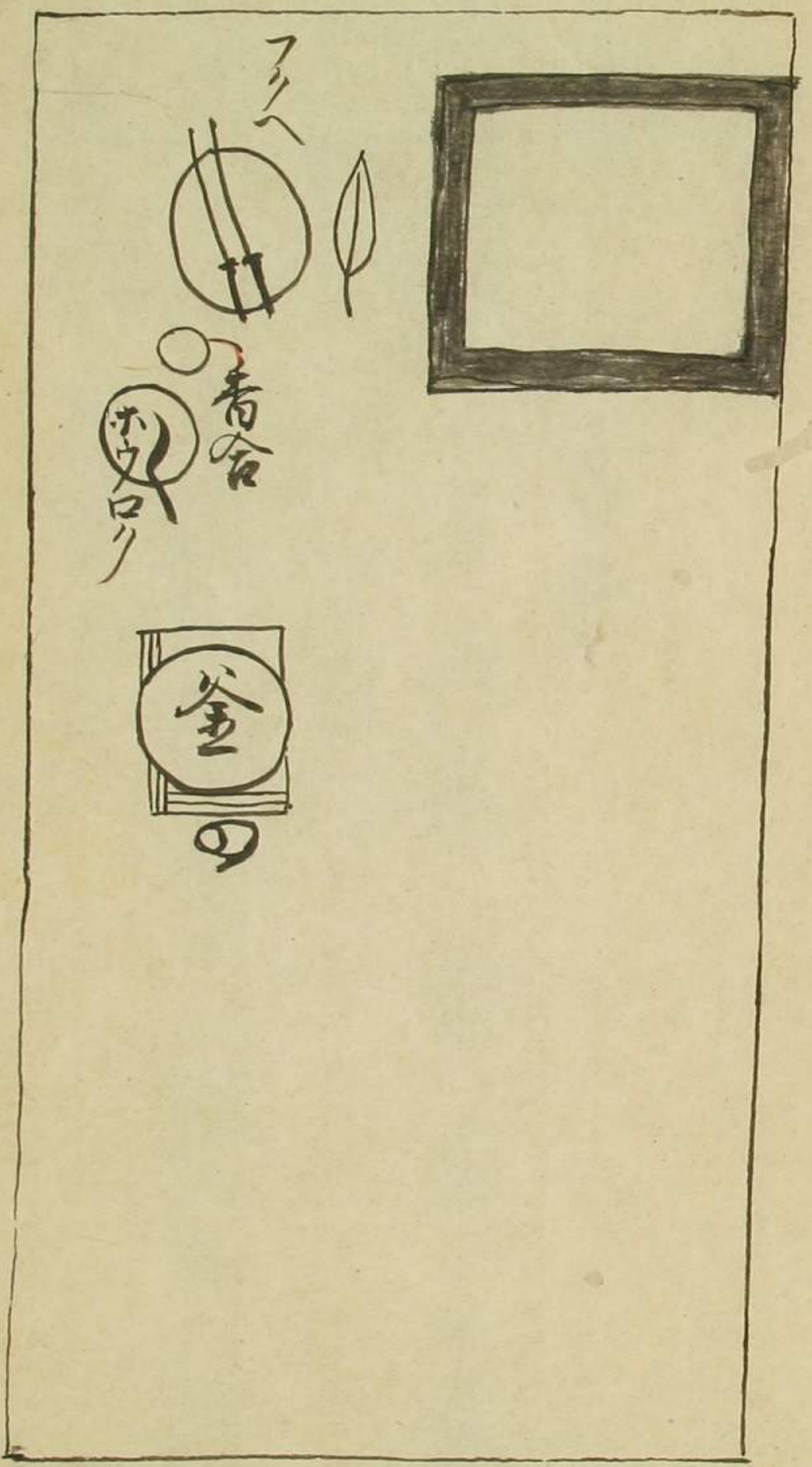
方、かきあててをききたぬしなれども、水指、
 冷り茶碗、先^{ヨセ}がけても重く茶入、さう茶
 碗、中取り、重く有、よめ指した、とつれ、
 茶入、重と云た、い、重、合、斤、より、て、
 三、分、洗、し

三、分、洗、し



一 寺の裏に土蔵の重し何れか魚の骨の骨を
 のよ中へ重しをうろくは骨の骨を
 一 骨の骨をうろくは骨の骨を
 但し骨の骨の骨の骨

寺の裏に

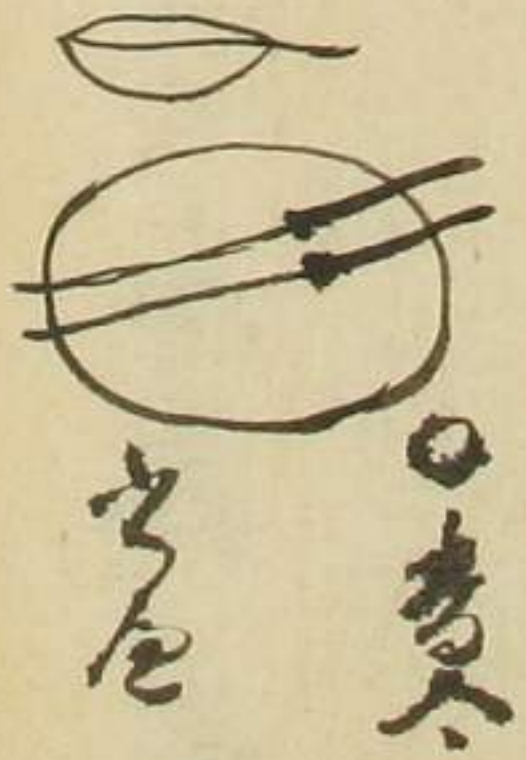
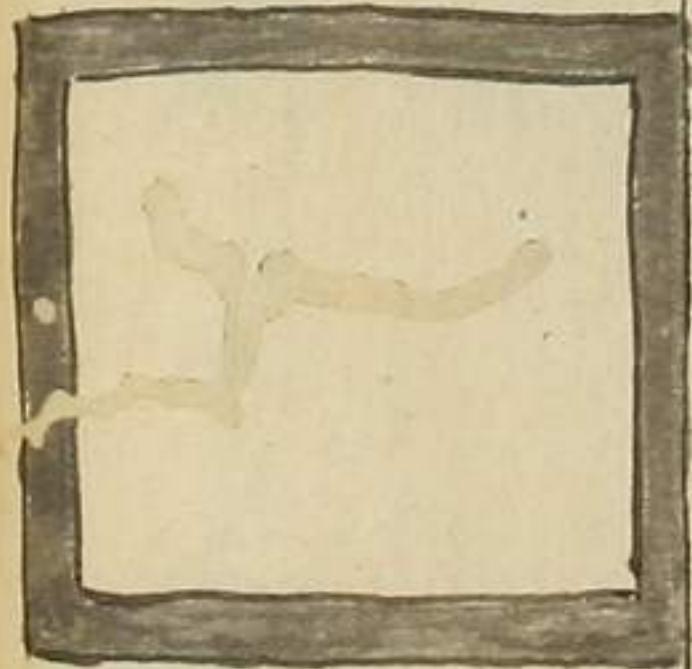
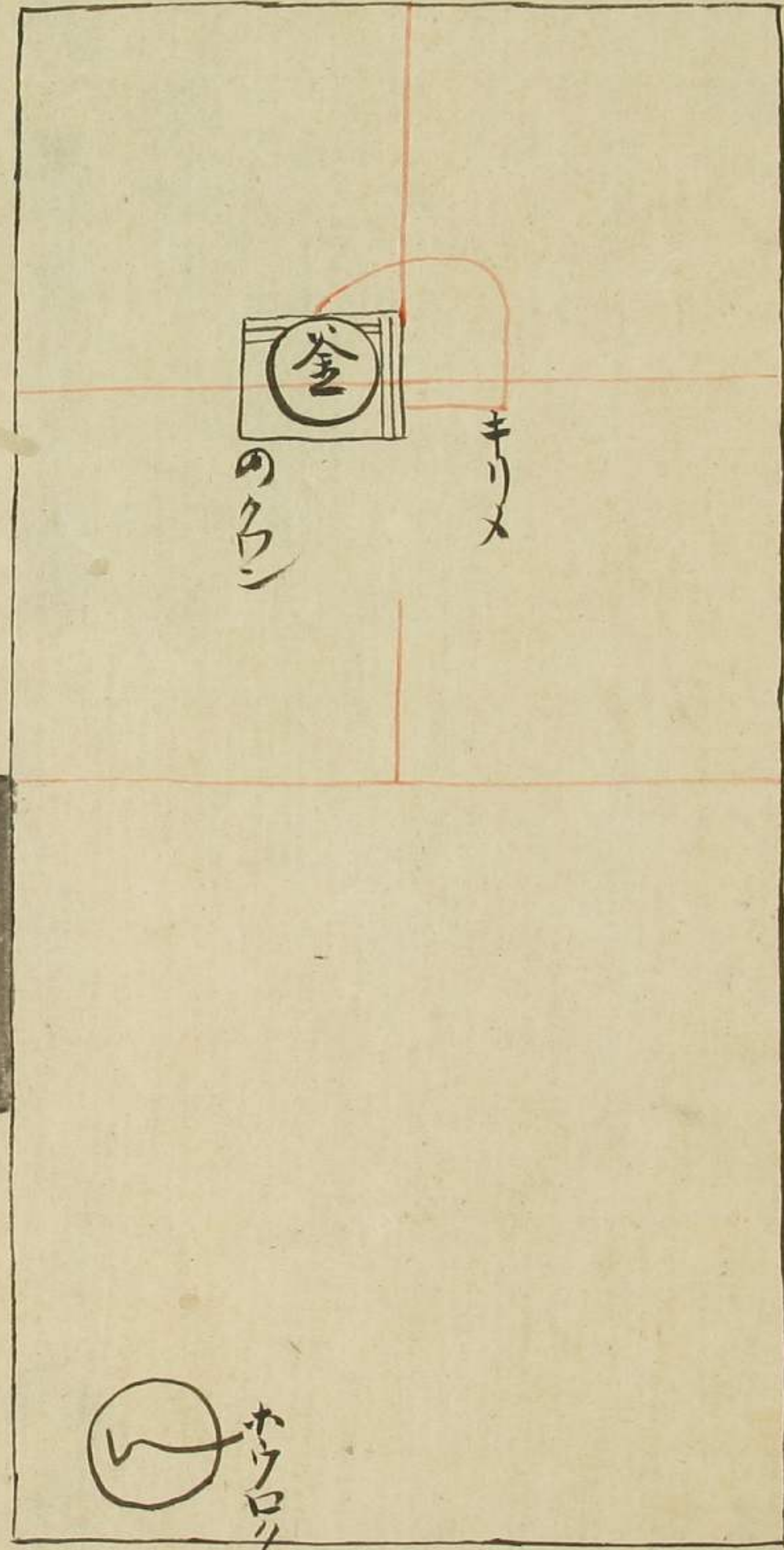


一 ぎをぬくすこの葉をねと事茶碗に置く
 注。茶を入る茶碗に入ると茶を茶碗を置くは
 茶碗の小茶碗入る水指く方、よく茶碗
 置くを茶碗も茶碗茶碗
 一 茶碗の炉邊に角を置く茶碗の中を
 合さるゝ大の茶碗二角に置く
 一 茶碗の土を置くより、その茶碗茶碗の
 茶碗の土を置く

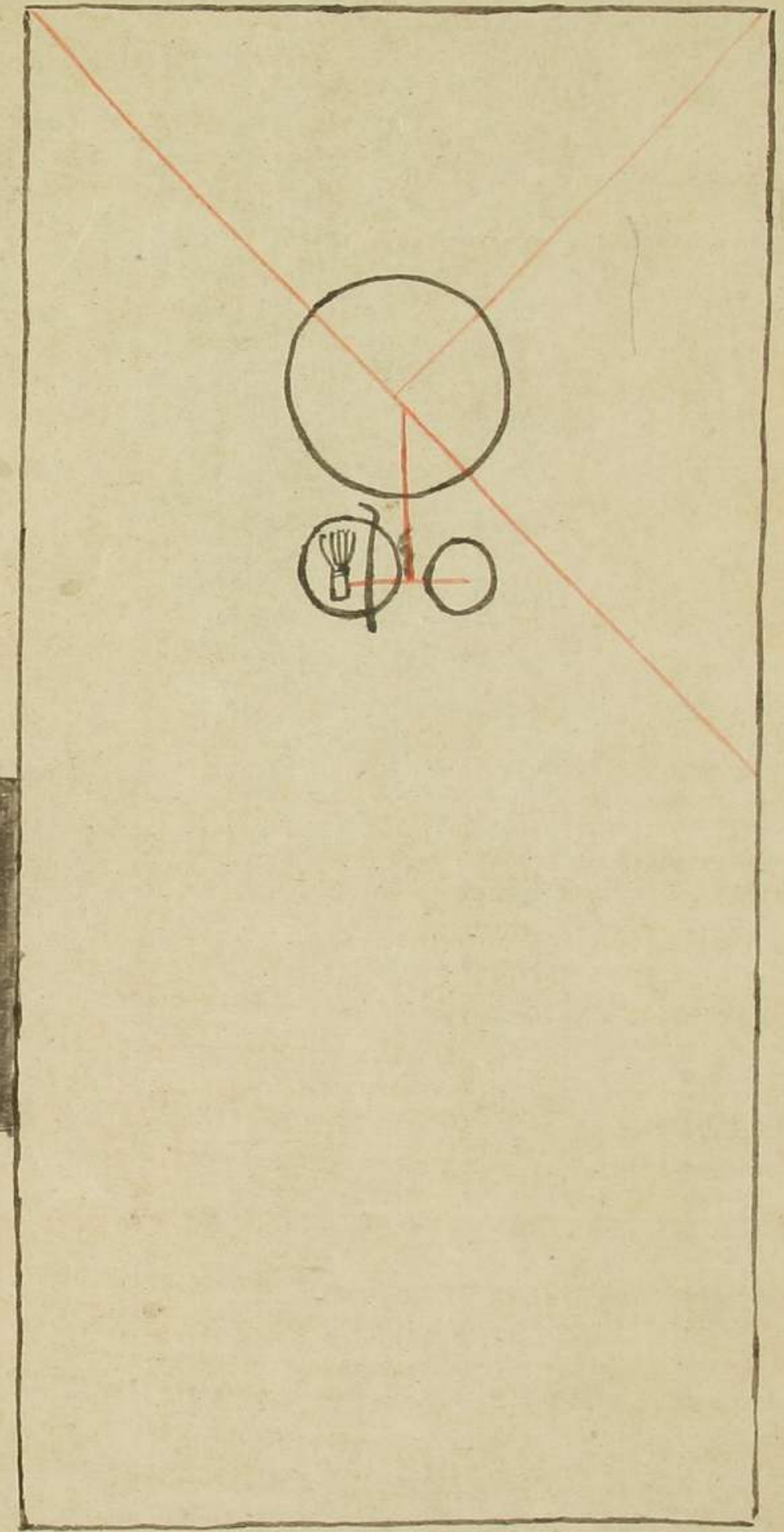
一 蓋を置くとき、茶碗の土を置く
 置く竹の目を置く方、よく茶碗と
 凡そ茶碗の土を置く、月のある方、足せ
 中の茶碗、土の目を置く中、細い
 茶碗の土を置く、茶碗の土を置く
 一 水指、茶碗の土を置く
 一 水指、茶碗の土を置く

一 右揚子也... 並合... 揚子... 不取易

右揚子也

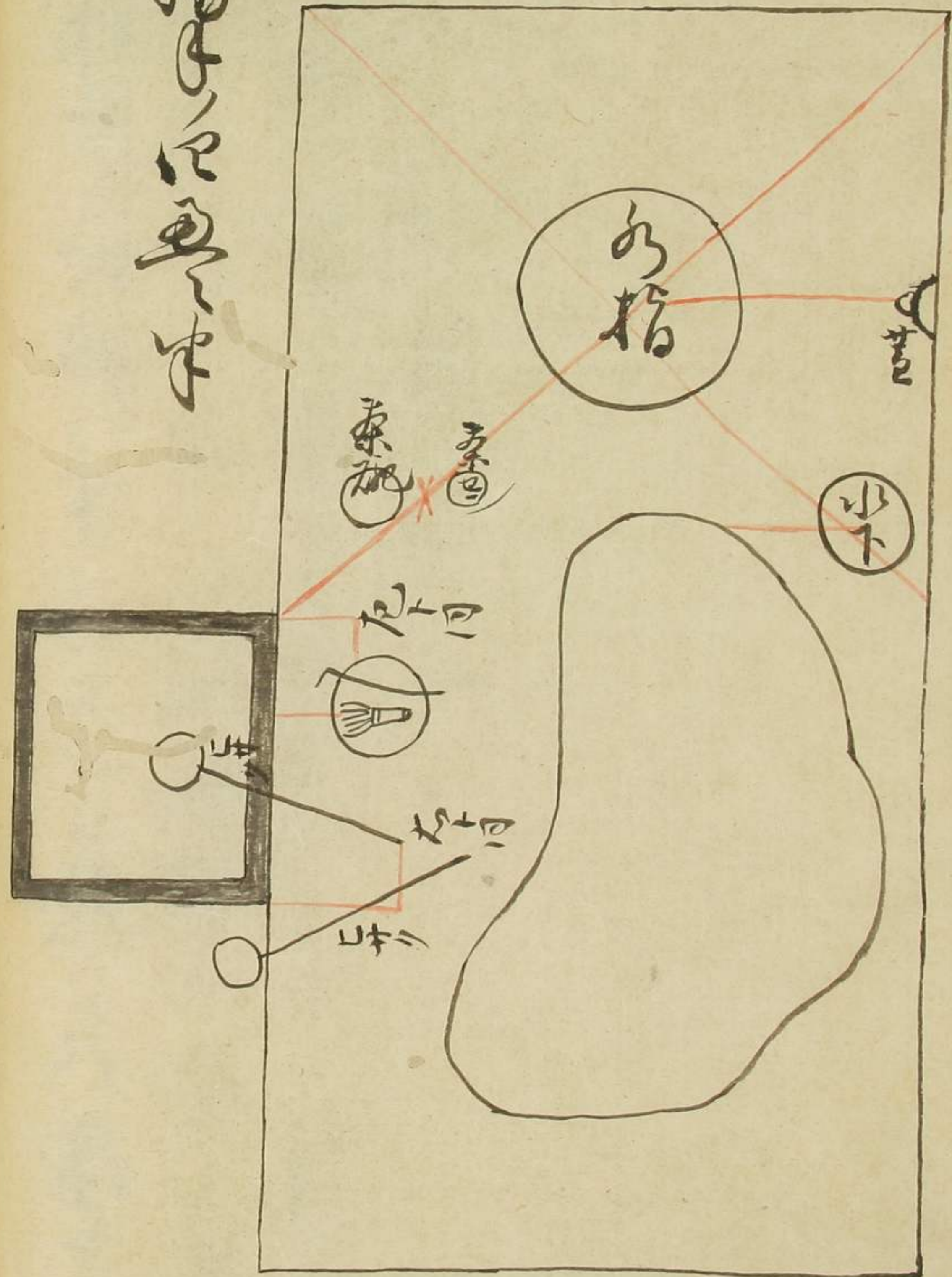


右指子口五寸

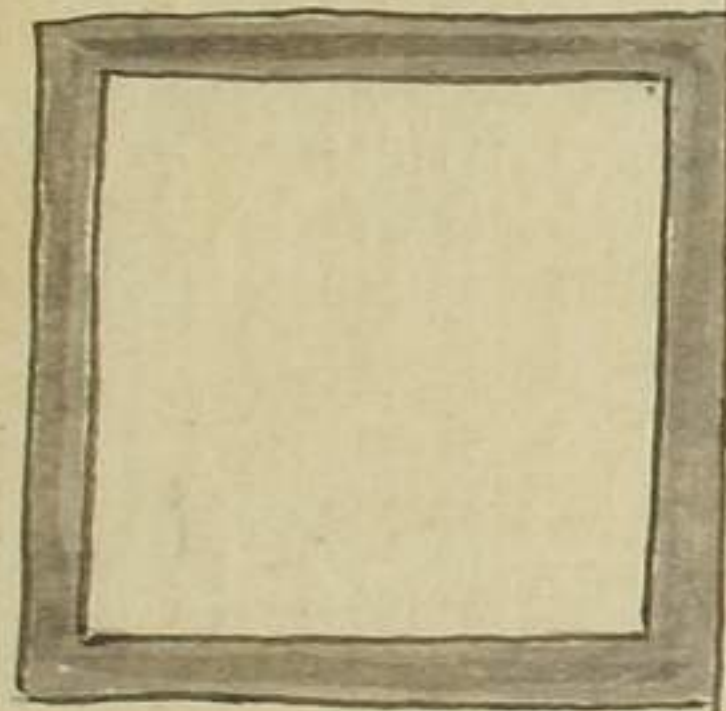


一 右指子口五寸半の若くは短くは指子
 とありては寸一は但柄抄女器の前
 前柄抄邊に重く桑入桑心先より右指子
 口五寸半の若くは短くは指子

右指の位置



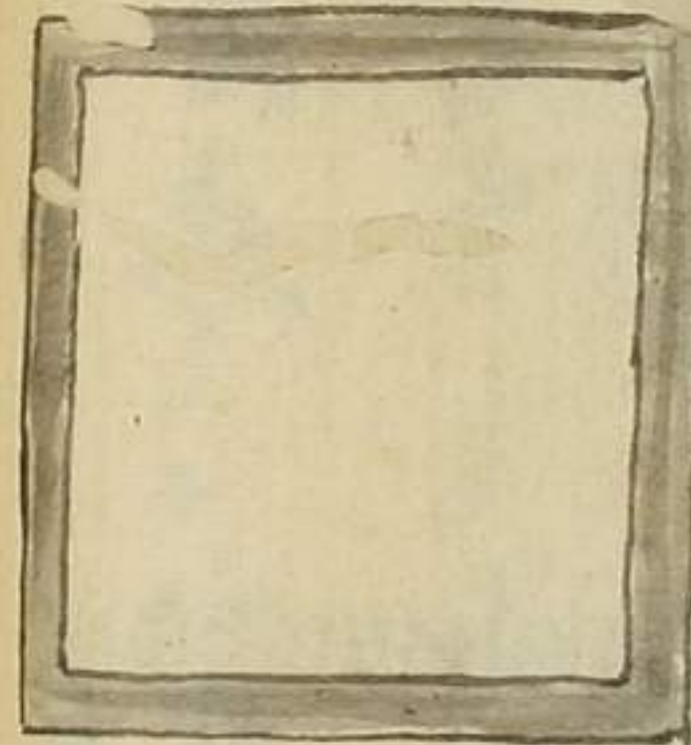
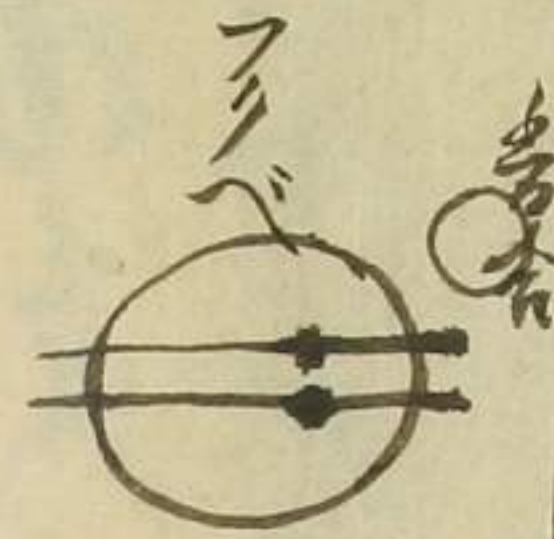
一 右指の長はあつては、
 所 陰の長はあつては、
 重なる方度、
 重なる見合、
 の法也



茶碗

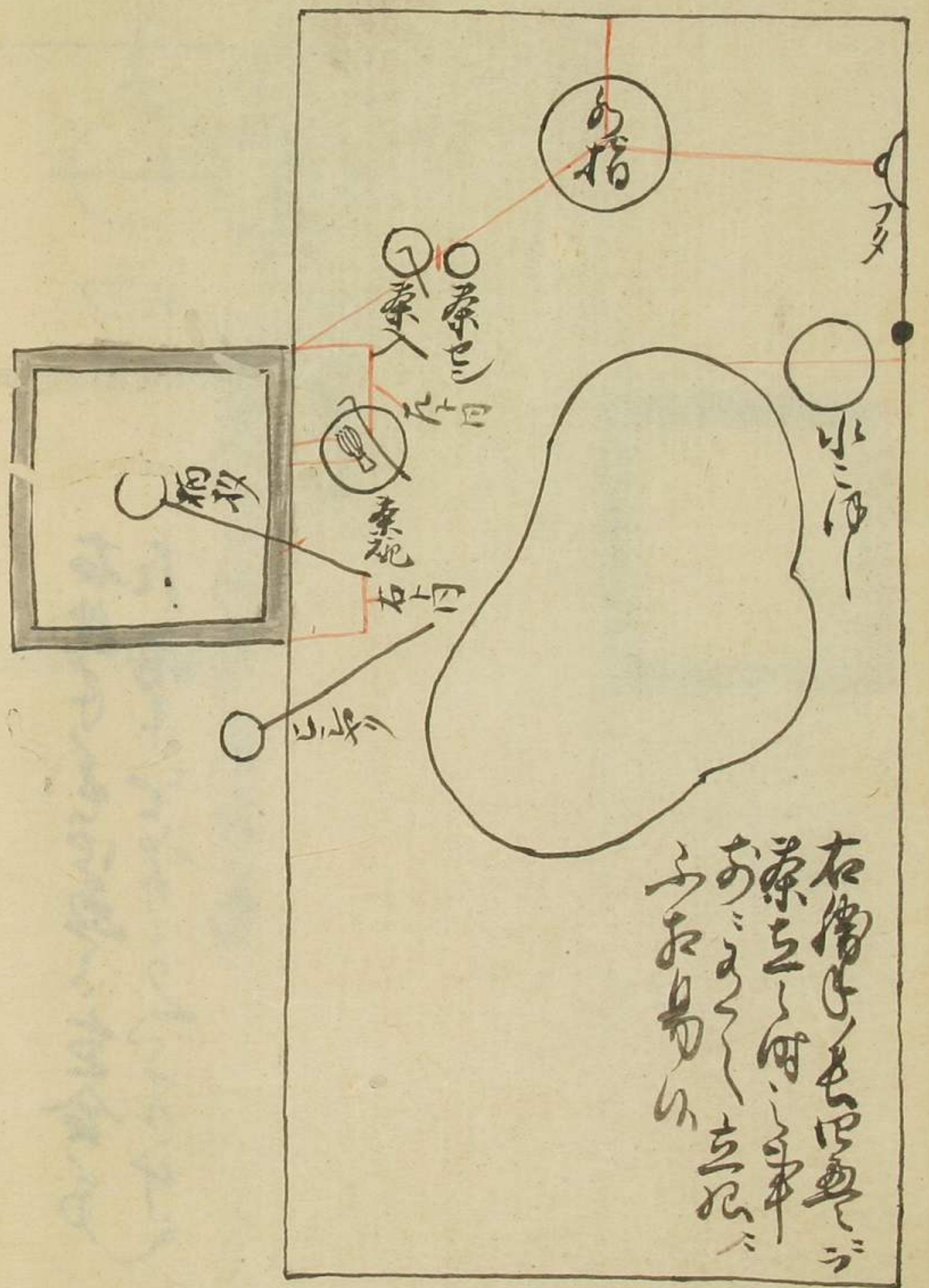
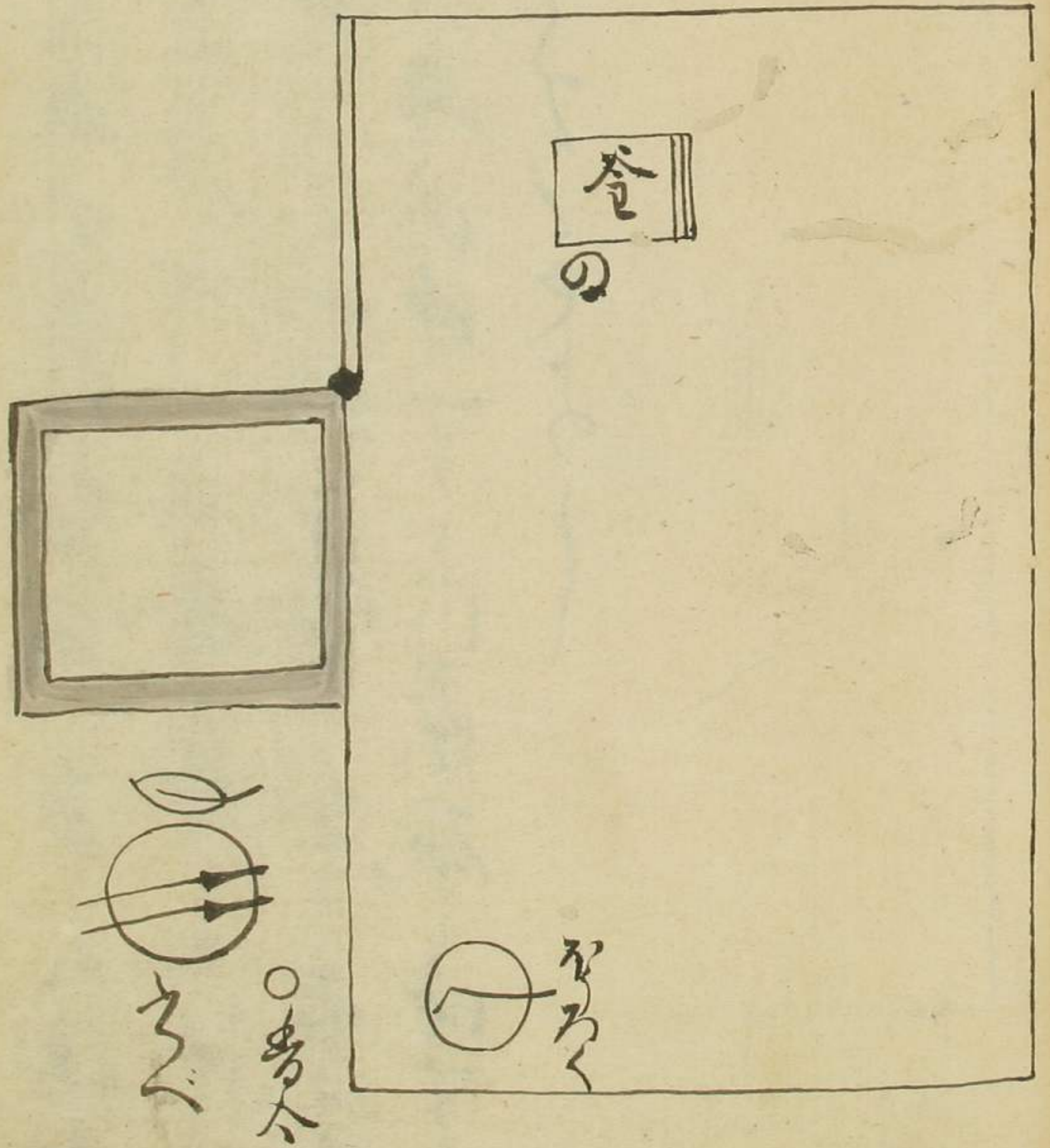
① 変入

右指ももはさるゝを合ふ
た指もさるゝを合ふ
おもふお易



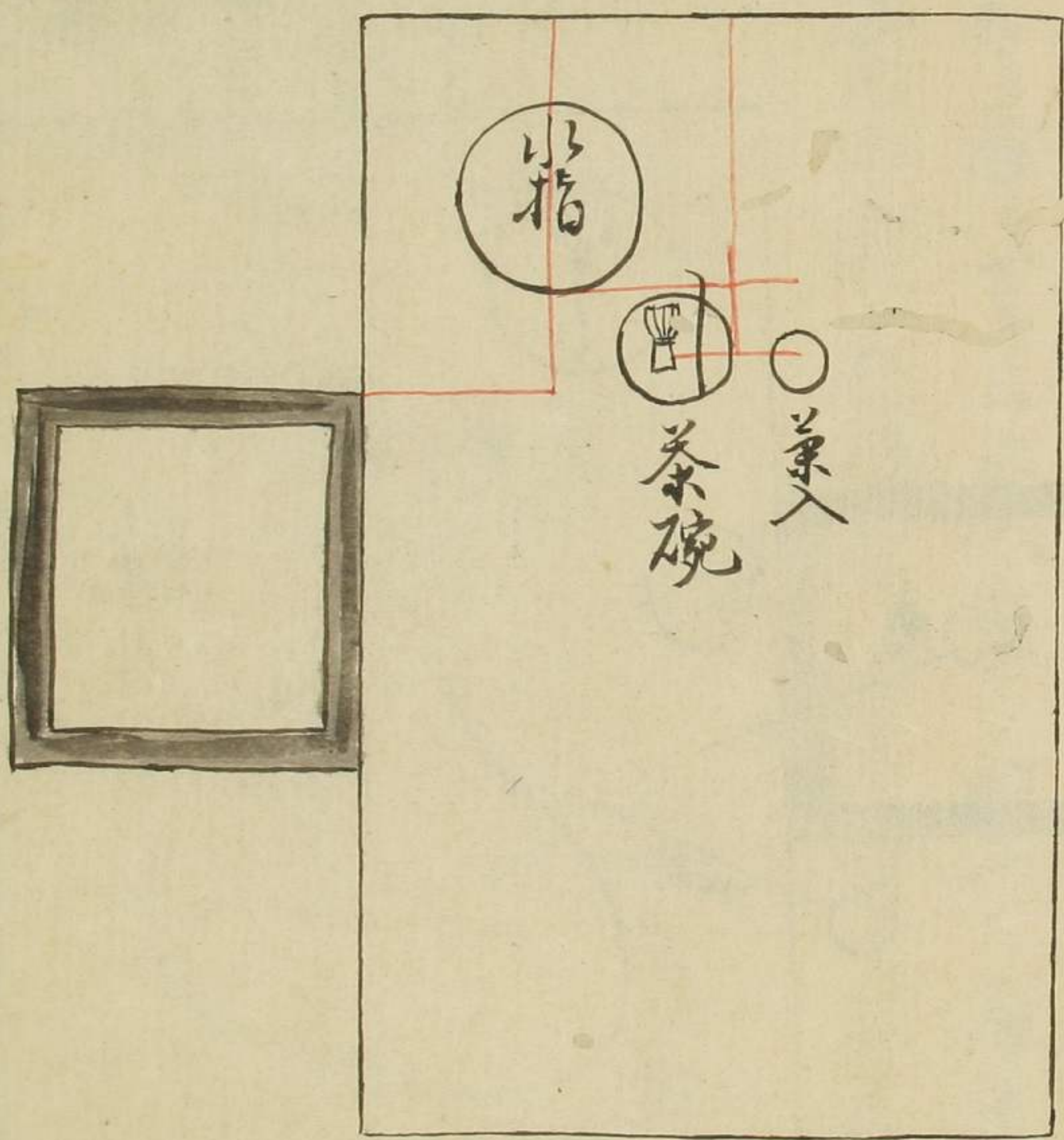
の

石橋の...
 三月...
 何...
 石橋...
 ...



右...
 ...
 ...
 ...

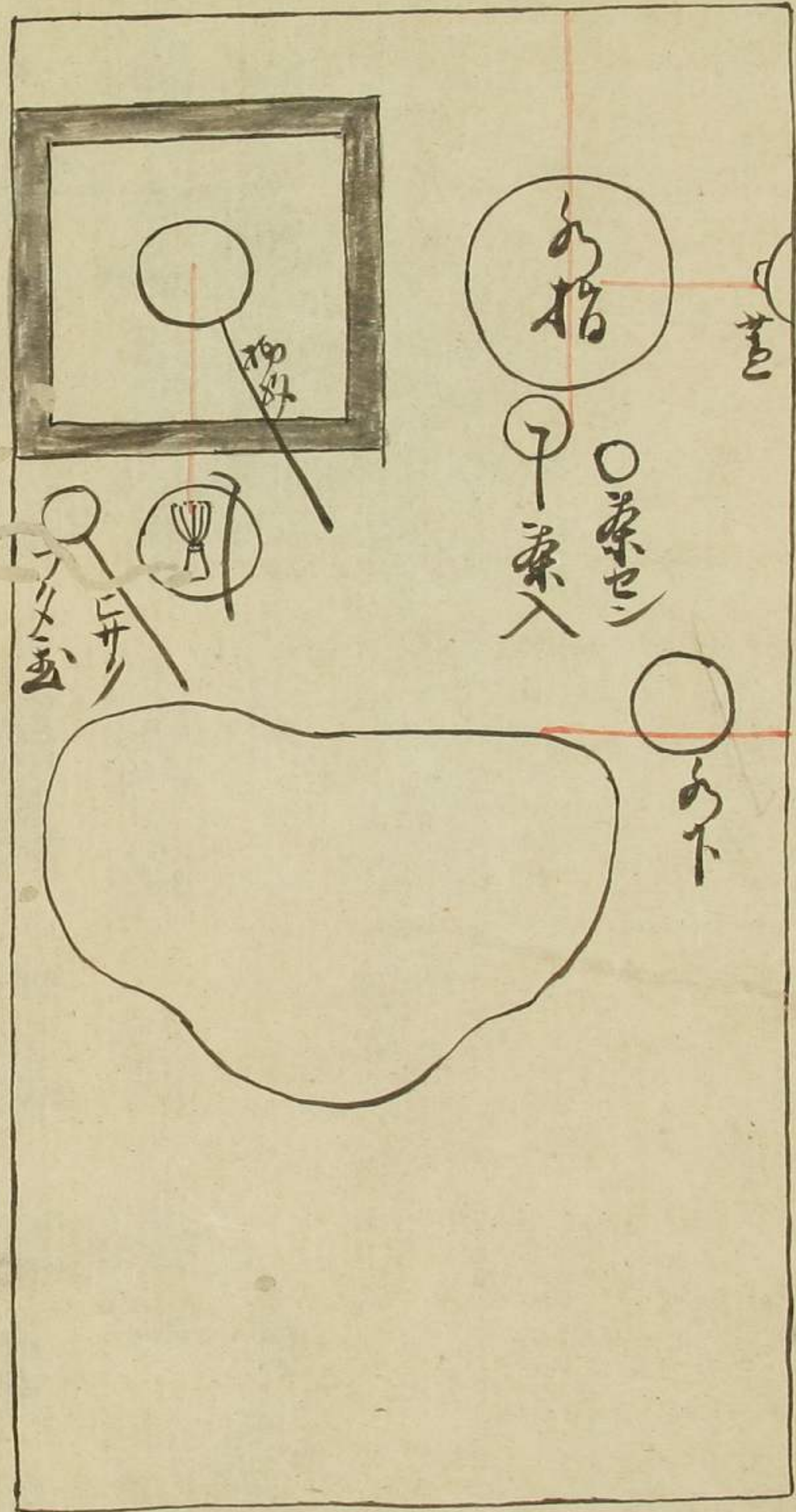
一 大指より三指まで指月並命、半大指より
 小指まで指月並命、半大指より
 茶碗、大指より三指まで指月並命、半大指より
 小指まで指月並命、半大指より
 茶碗、大指より三指まで指月並命、半大指より
 小指まで指月並命、半大指より



一 右揚子ノ五、五ノ半、六ノ茶、五ノ何、半、茶
 碗を合入れ、五ノ茶、五ノ何、半、茶、
 蓋、五ノ何、半、茶、五ノ何、半、茶、
 五ノ何、半、茶、五ノ何、半、茶、
 何、五ノ何、半、茶、五ノ何、半、茶、



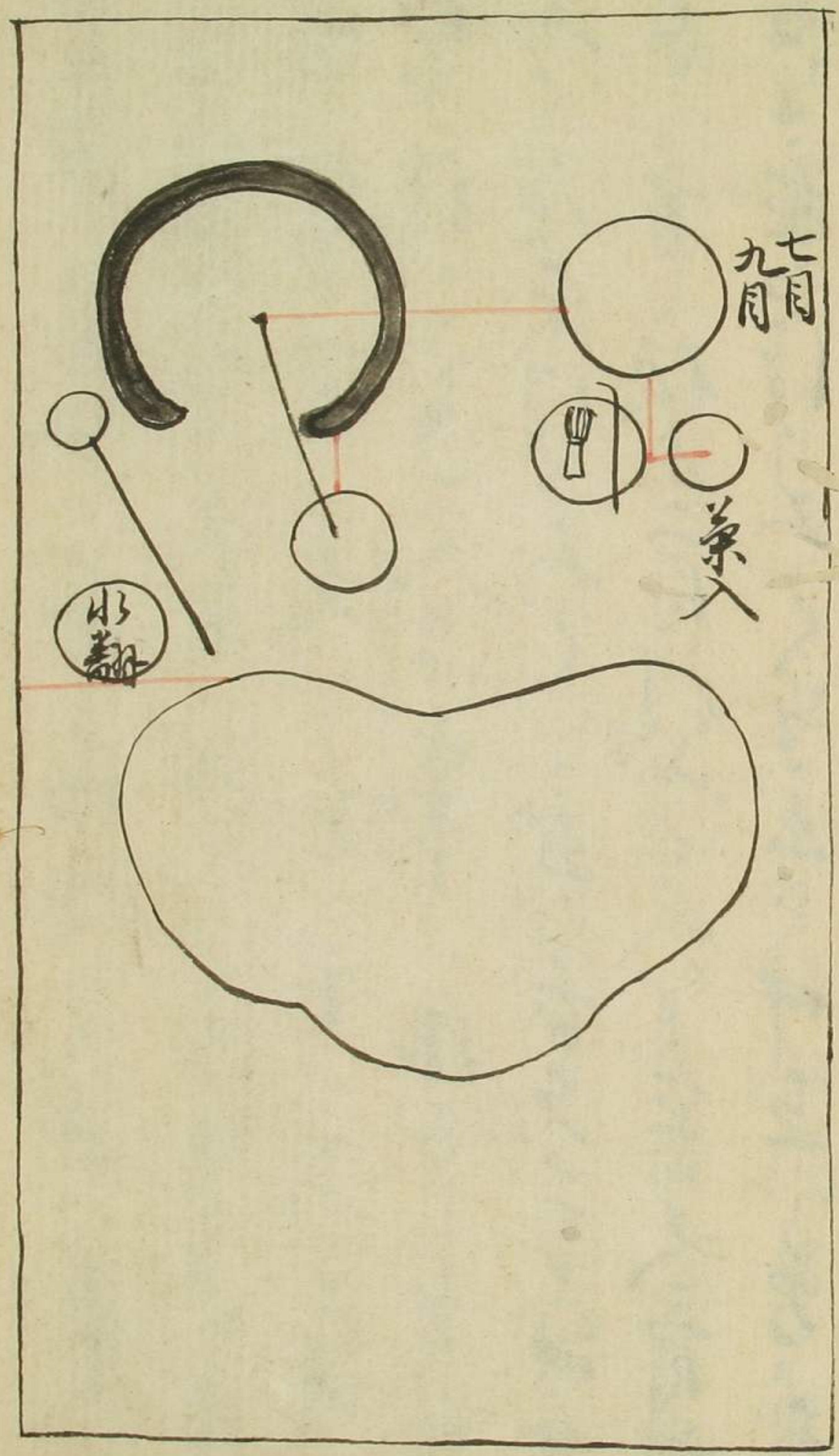
右揚子ノ五



一 風爐、何處に置し、釜の重り、或は櫃の四寸程
 おし、厚りか、五月と、おし、重く、或は、切月、
 或は、おし、或は、何の方、おし、重く、或は、或は、角、
 或は、何の方、おし、

一 炭入、何處に置し、先、或は、何の方、おし、
 重く、或は、或は、何の方、おし、
 或は、或は、或は、何の方、おし、
 或は、或は、或は、何の方、おし、

へつれ、茶碗の上中を合ら、重く又合ら
 栞板をう返のさうさ茶碗の上中、
 ねも、重うてし合
 一蓋、重小板と厚りの別、重く合ら、
 小板、角のあ、下は、重く栞板も、
 こぼし、急を川、付ら、
大



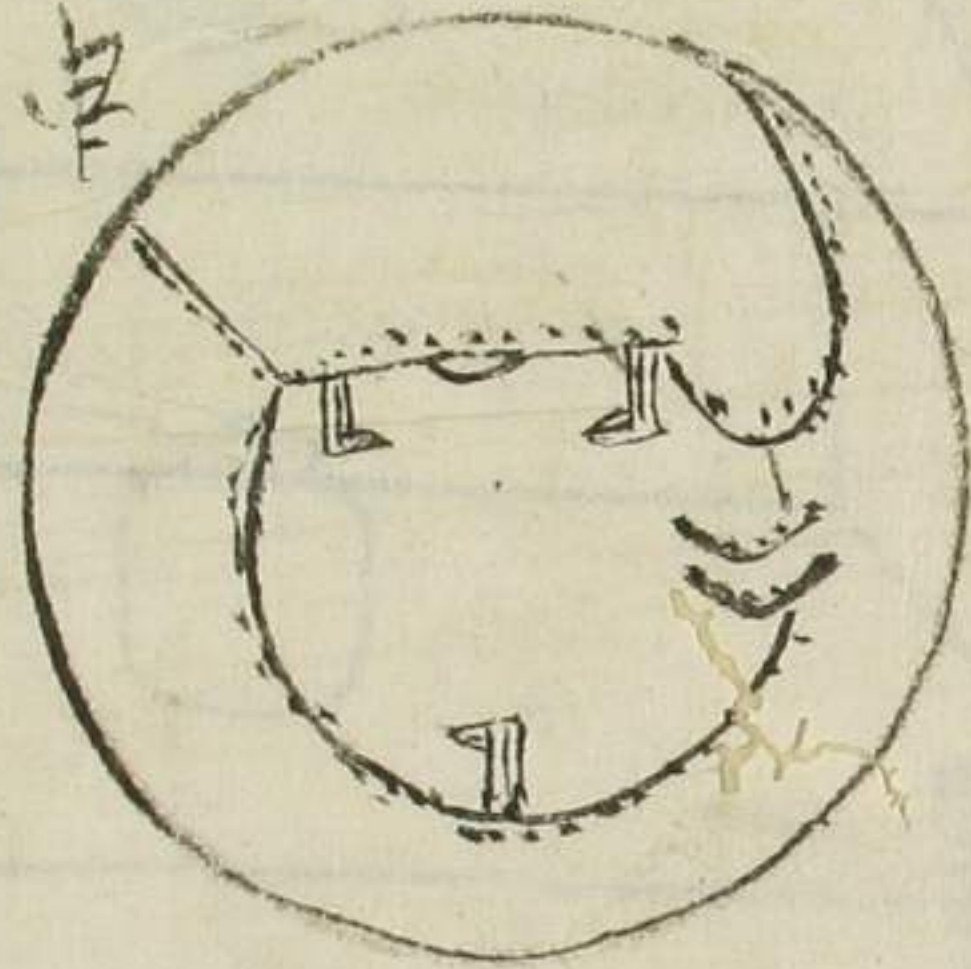
一 寺に庫に或命し事初初に土中ニ茶入を
置るをたたい土中但くくく土中より廣
重く土中に見し物と先は土中より
めり種は土中入る土中下は揚子江方付
少く土中よりくく土中先は土中揚
子江方板の二月種少く土中又三月種
も土中よりくく土中土中より方あり
土中茶入は土中種を種を竹打に

土中茶入は土中二月種は土中より月より
初く方なりて土中より水指斗に土中
茶碗のふりて入る種は土中何れは
茶碗茶入は土中より土中先と
あはれ先は土中入る土中茶入は土中茶
碗斗に土中土中種は土中先は土中
水指斗に土中下は土中土中種は土中
の方より廣く土中より土中種は土中

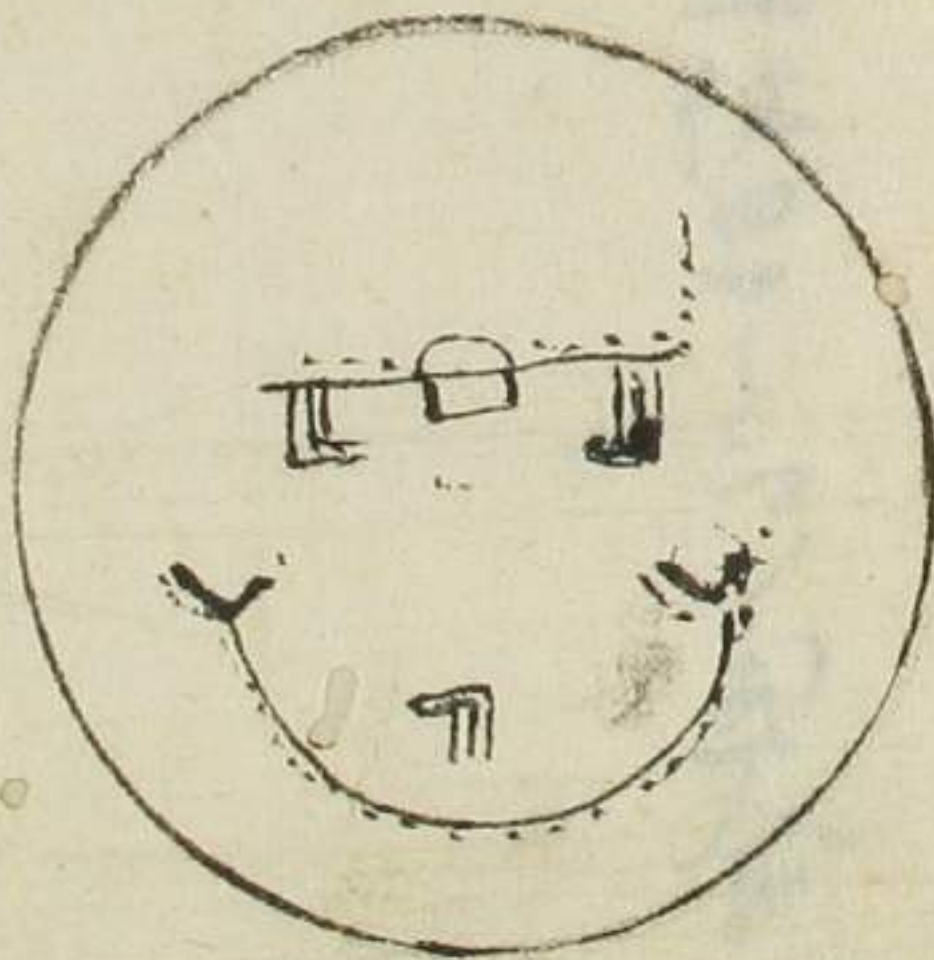
泉



泉

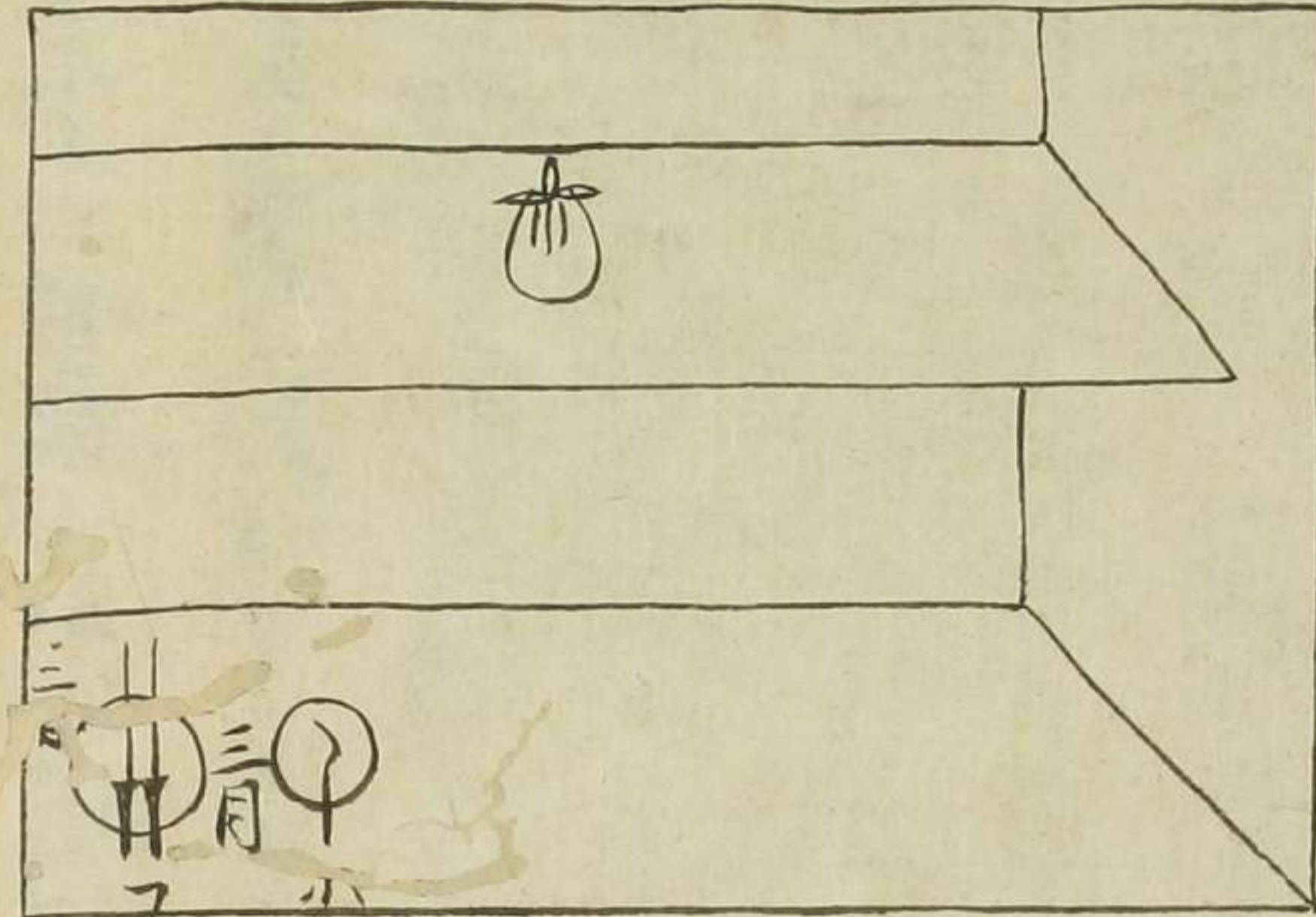


泉



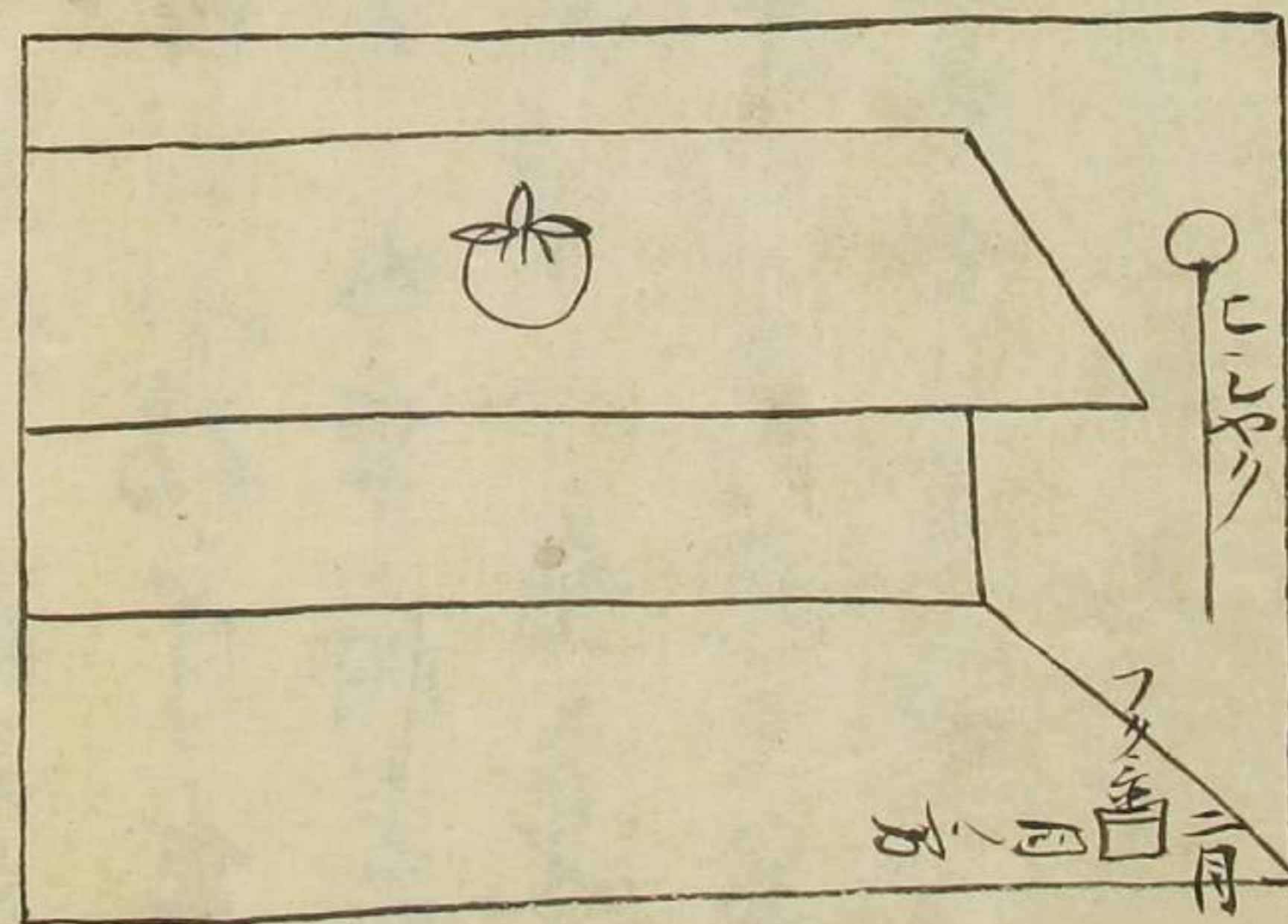
會席
前
五合

土沖
い
あ
わ
わ

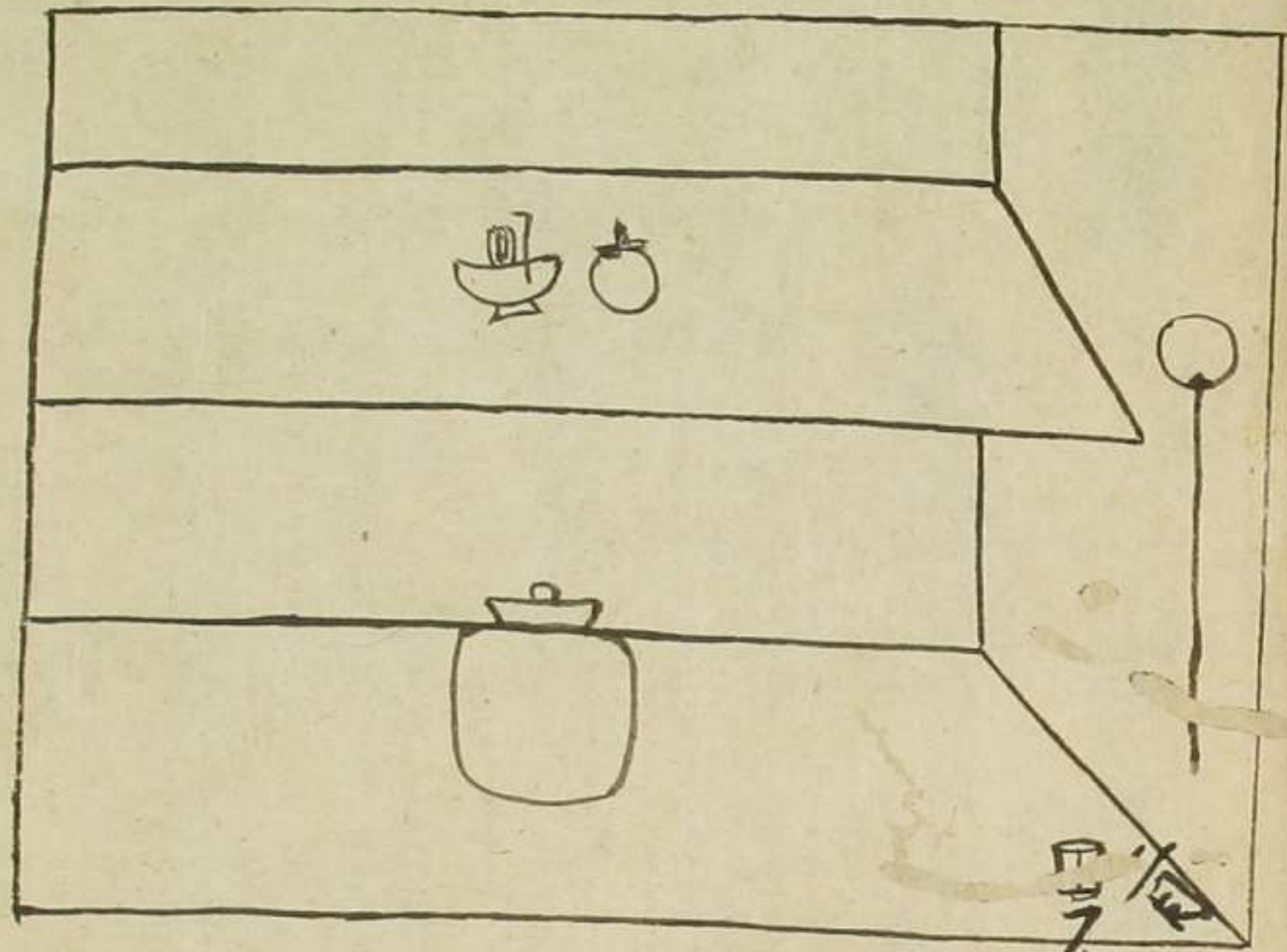


三
井
フ
ク
入
三
月
三
月
ク
ウ
多

泉
あ
い
五
合



三
月
ク
ウ
多
三
月
ク
ウ
多

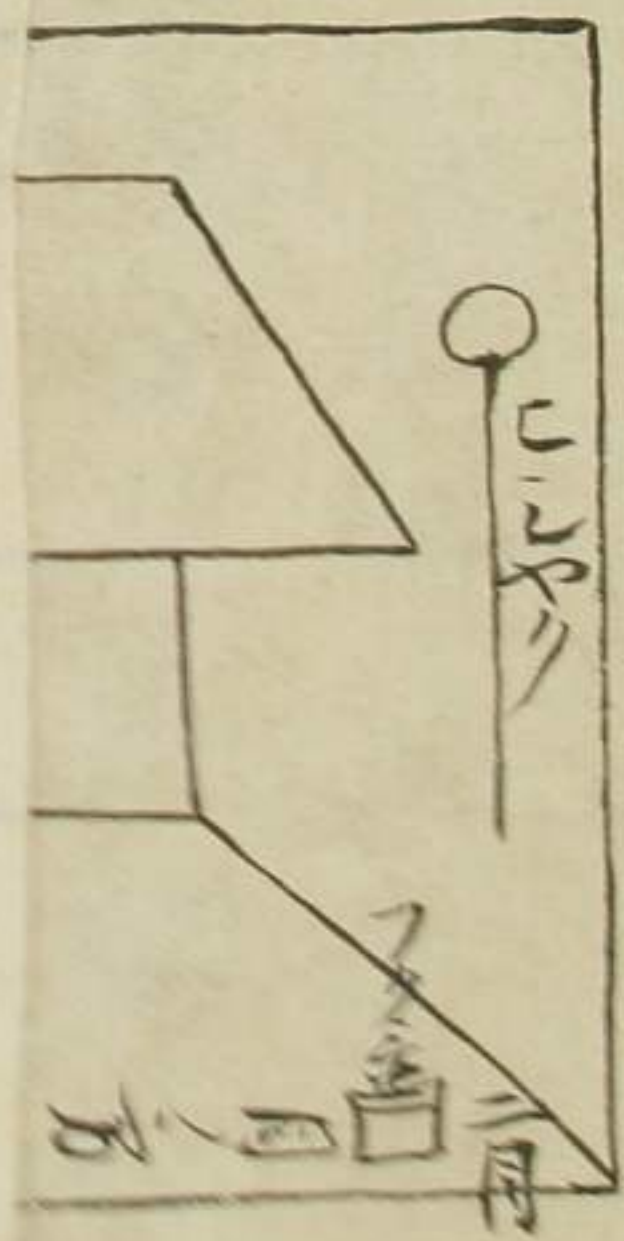
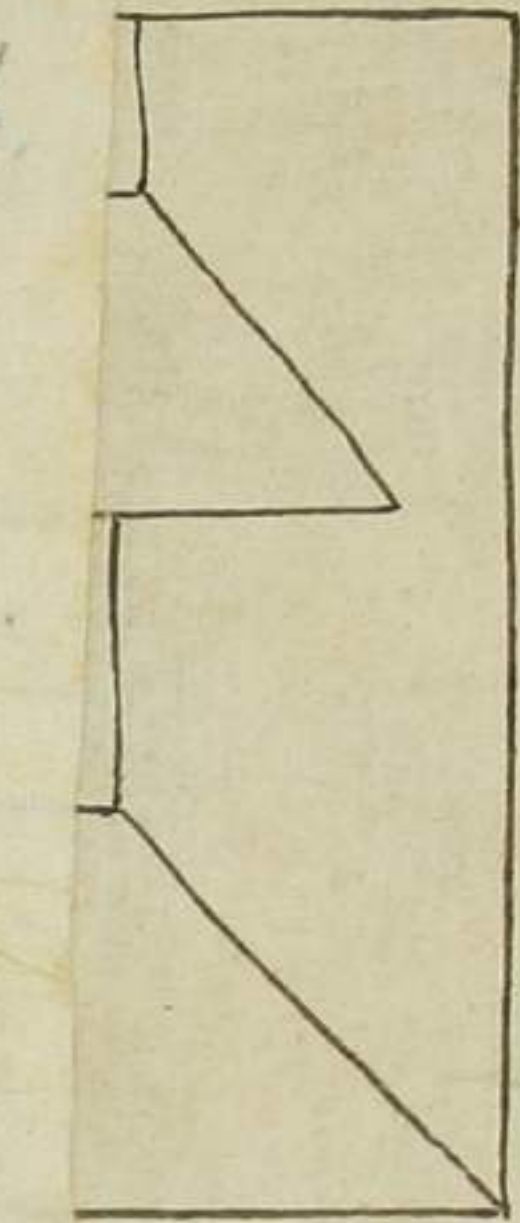
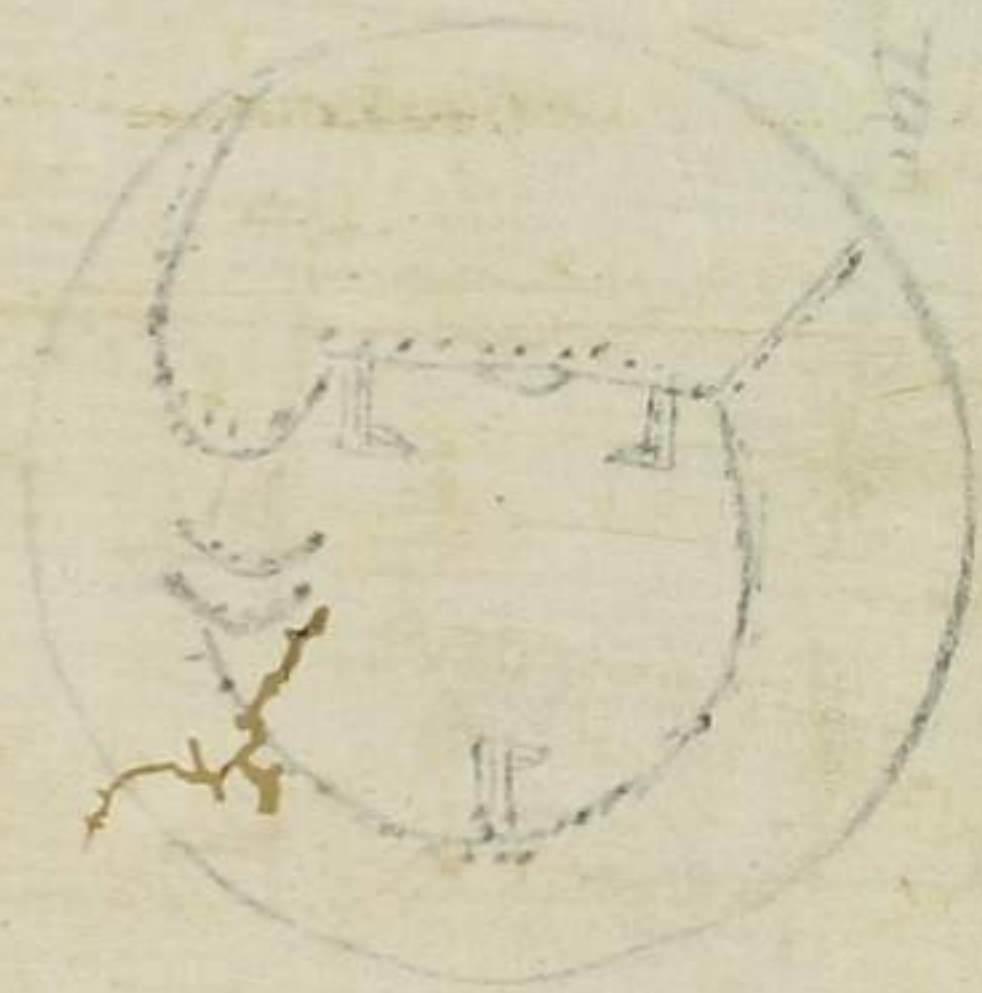


三ツタ五

桑立仕向一から五合

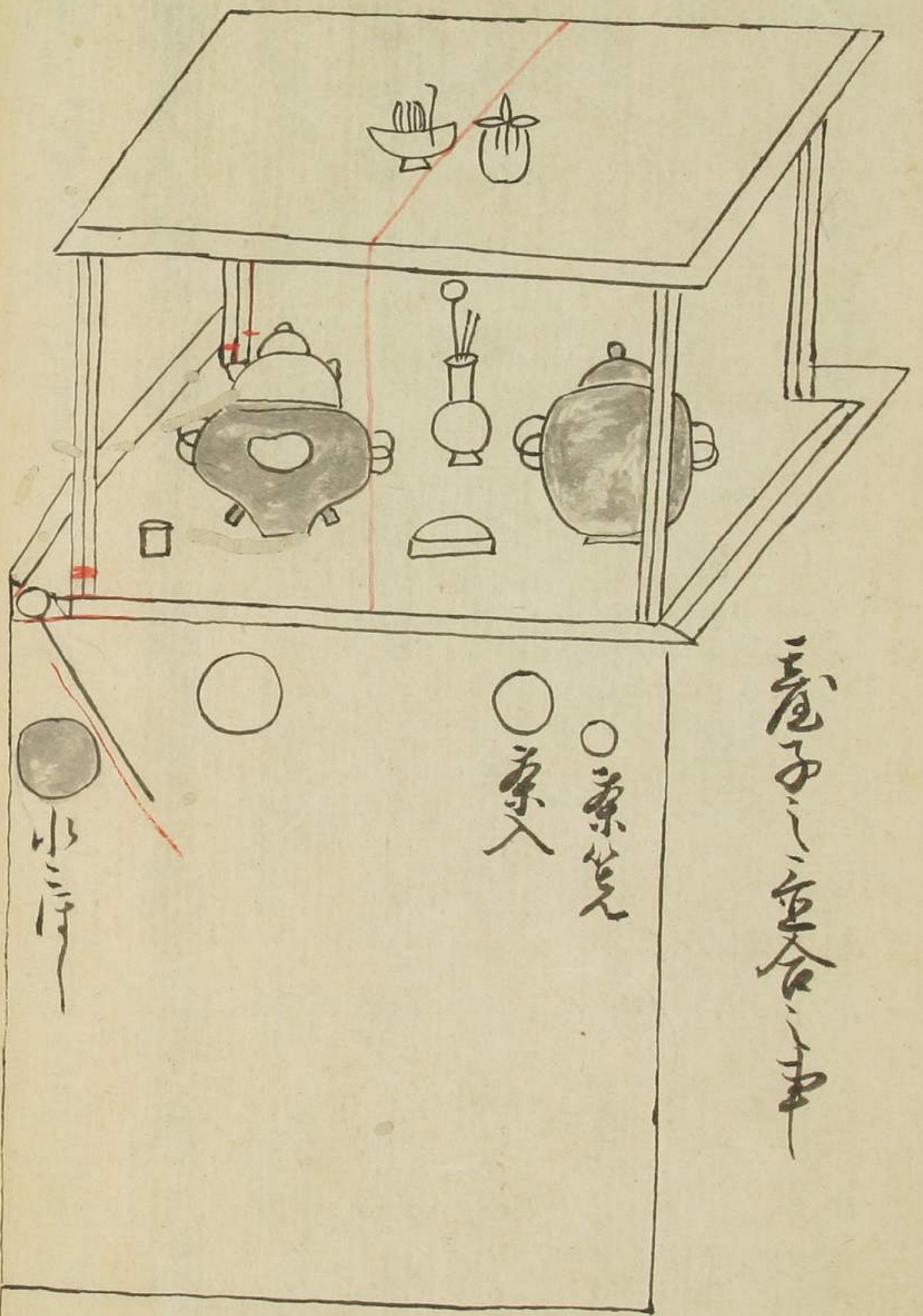
會席
前
五合

土沖...
あわね



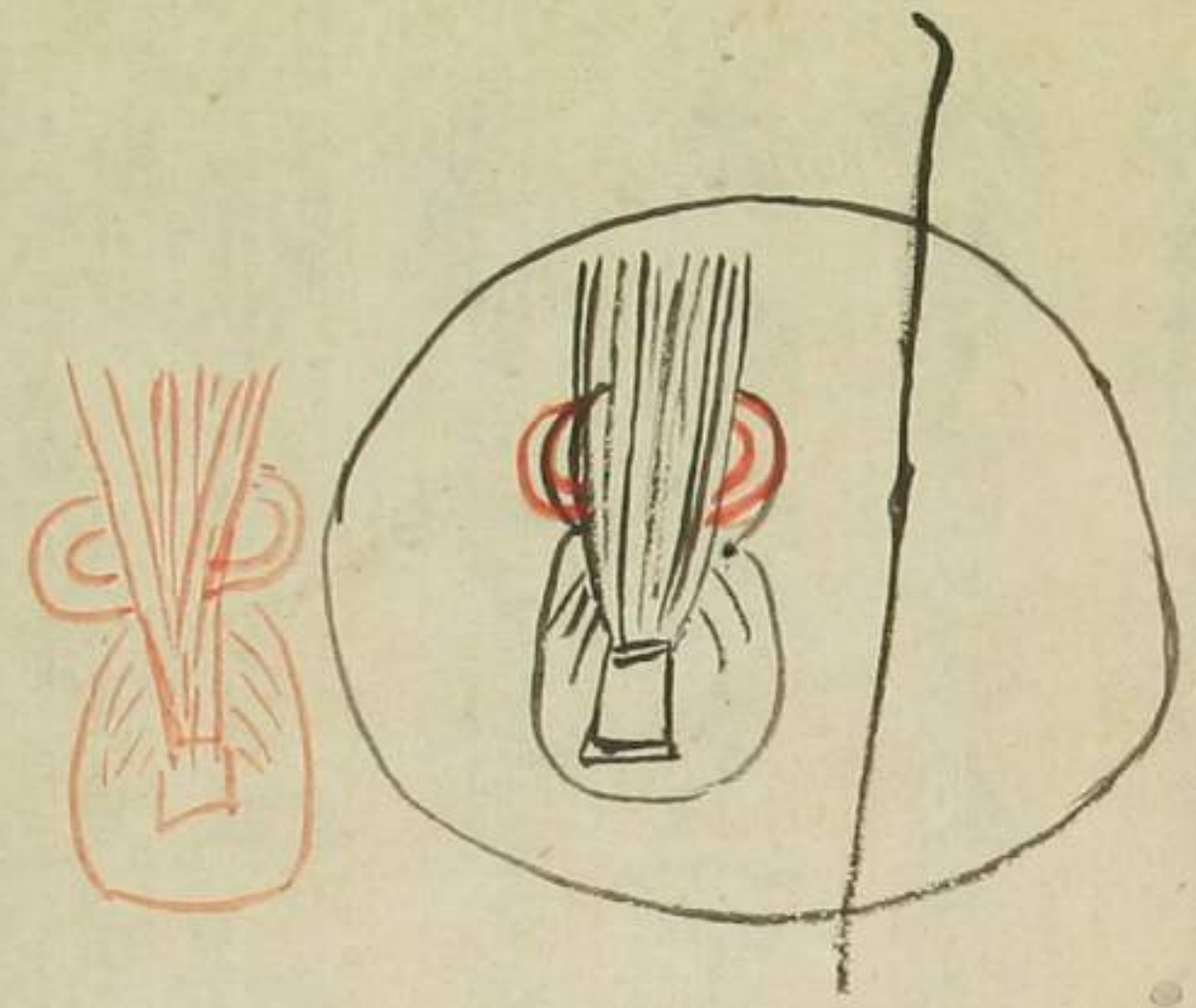
桑立仕向一から五合

茶子合の事

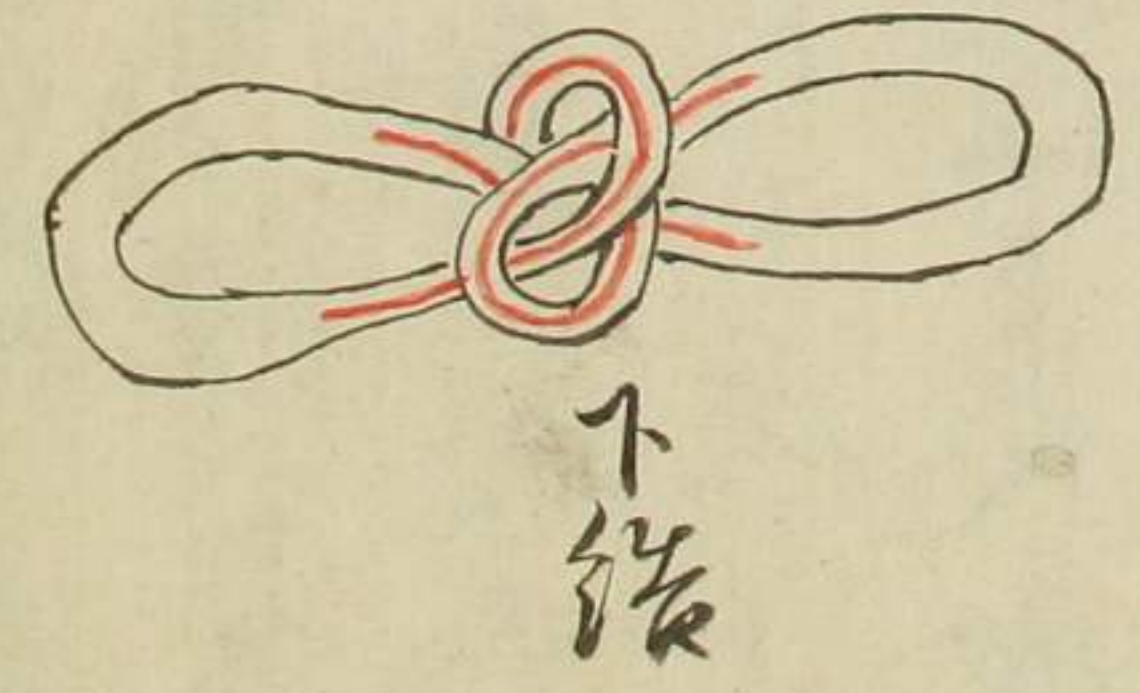
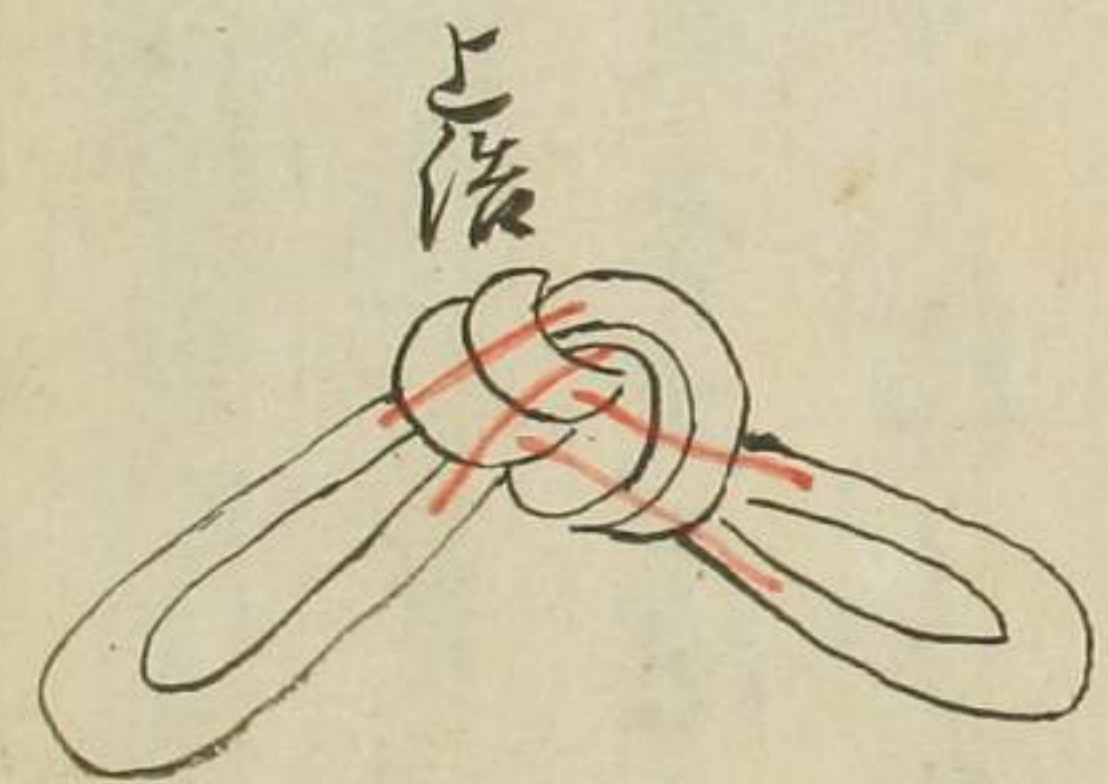


一 茶碗、茶巾、茶椀、茶杓は、茶椀の右に
 ぬい茶碗、土中、茶椀、あめのもの、右に
 すまじり、ほろ、さき、前、合、右、茶杓、茶
 茶杓と茶碗、けの、右、茶椀、あ、茶
 茶、茶と茶碗、土中、茶、茶杓、茶
 茶碗、内、け、より、茶、茶椀、下、茶
 茶、洗、ら、茶、け、り、水、茶、茶、茶、茶、
 角、茶、茶、茶、茶、茶、茶、茶、茶、

中を二ねぢら福らして茶碗とてこのおちけ
 こまに茶碗とのせして重く麦の茶中、水ツヤク
 まはは^あい^まり^たく^うみ^ても^能く^是は^徳茶^の茶
 中へ落茶、茶中の交冬共、おち能丸角
 くま川とてくつもおちのりとも茶碗、底に入
 こまに茶碗とて重く茶碗のなまら^り前^のおち
 茶碗、重くは茶碗、おちのり、おち重くこく
 本とてくくくおちとて重くおち



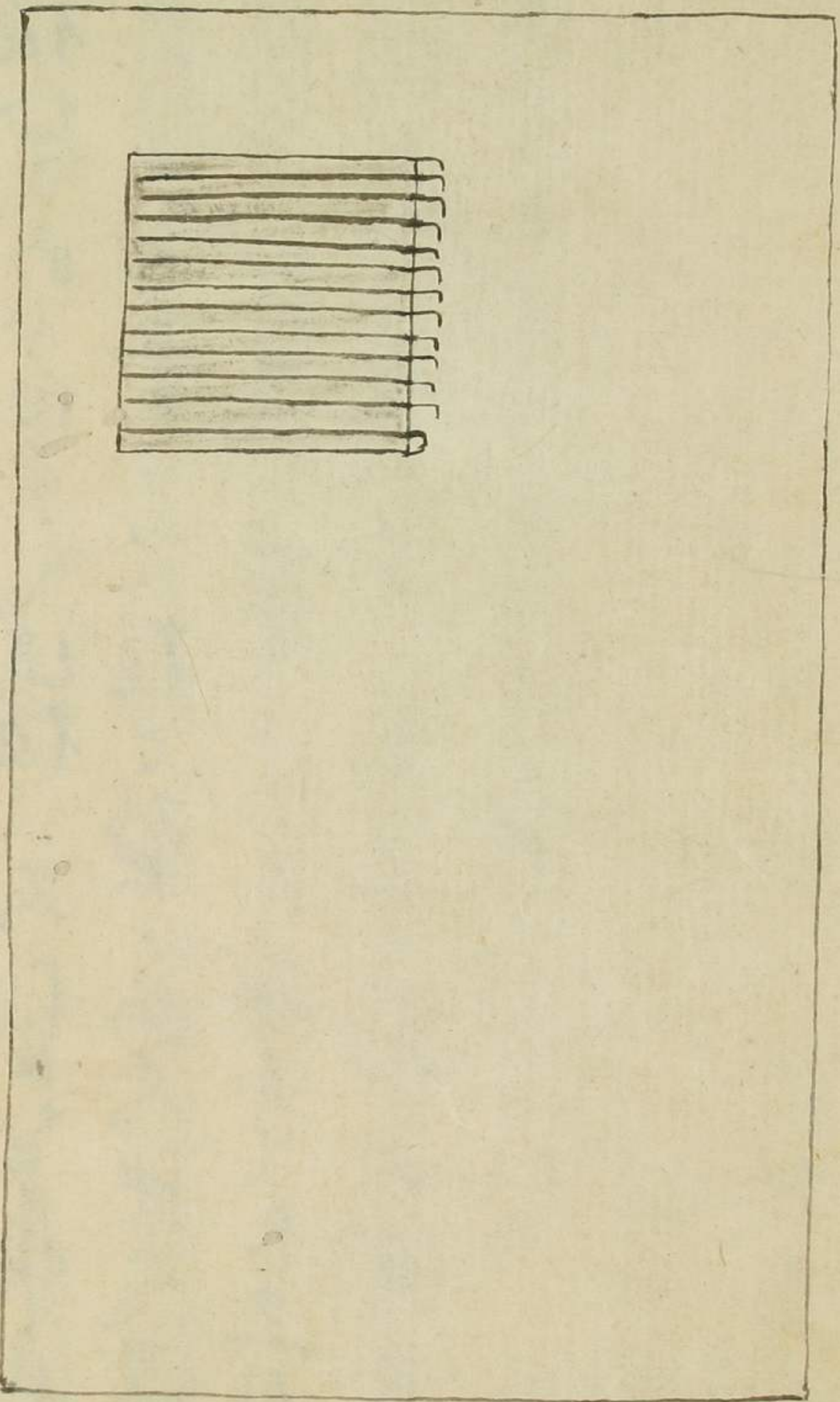
茶入袋、流、結



一 小板は凡そと長し申し凡そ小板は五寸に五他に
 少くはよりて前におくもさうして何れ板を
 大板に合しあはぬ凡そおの川におくは
 一 大板は五寸めらば方におく板は凡そ中
 と長しお板は方より片布の先とを
 板は凡そ三寸七分に重らば他は板は凡そ
 の大板に重く又板は凡そ凡そ凡そ凡そ
 板は凡そ五寸五分に重らば凡そ凡そ凡そ

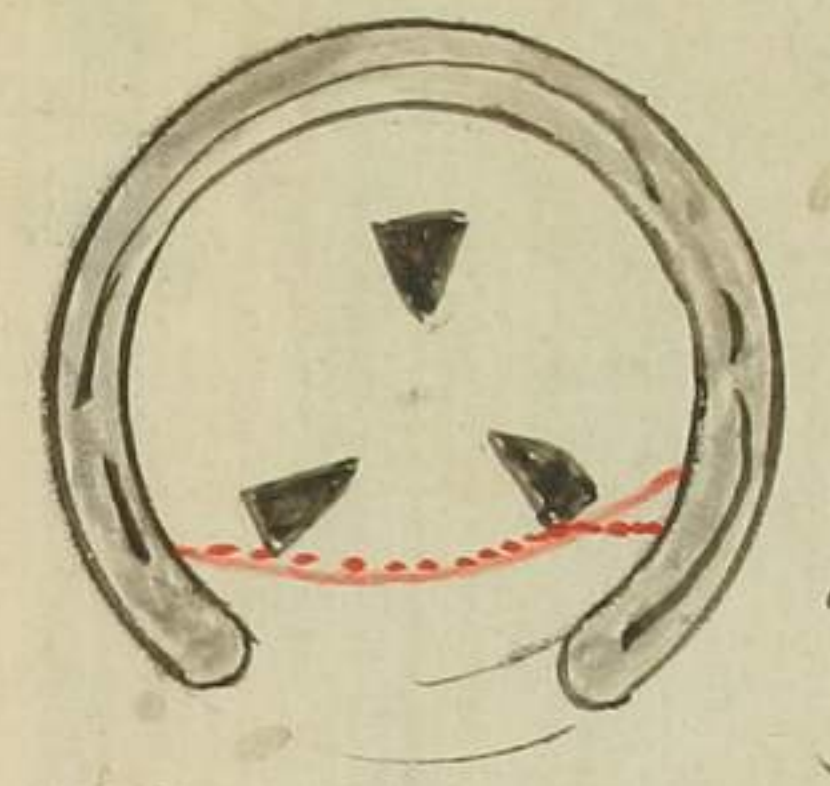
凡そ凡そ凡そ凡そ

一 小板は五寸めらば方におく板は凡そ中
 と長しお板は方より片布の先とを
 板は凡そ三寸七分に重らば他は板は凡そ
 一 大板小板は凡そ凡そ凡そ凡そ凡そ
 其の木目も凡そ凡そ凡そ凡そ

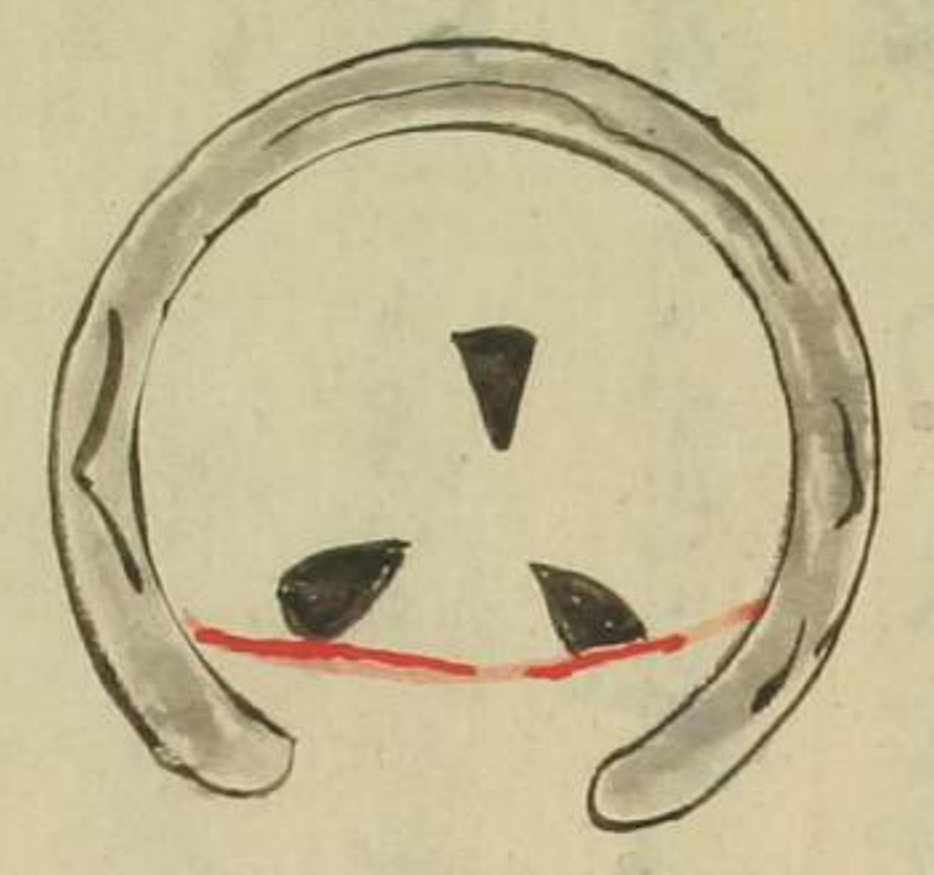


亦凡者先向...
さ右向...
大...
不若...
正...
灰...
し...
し...
し...

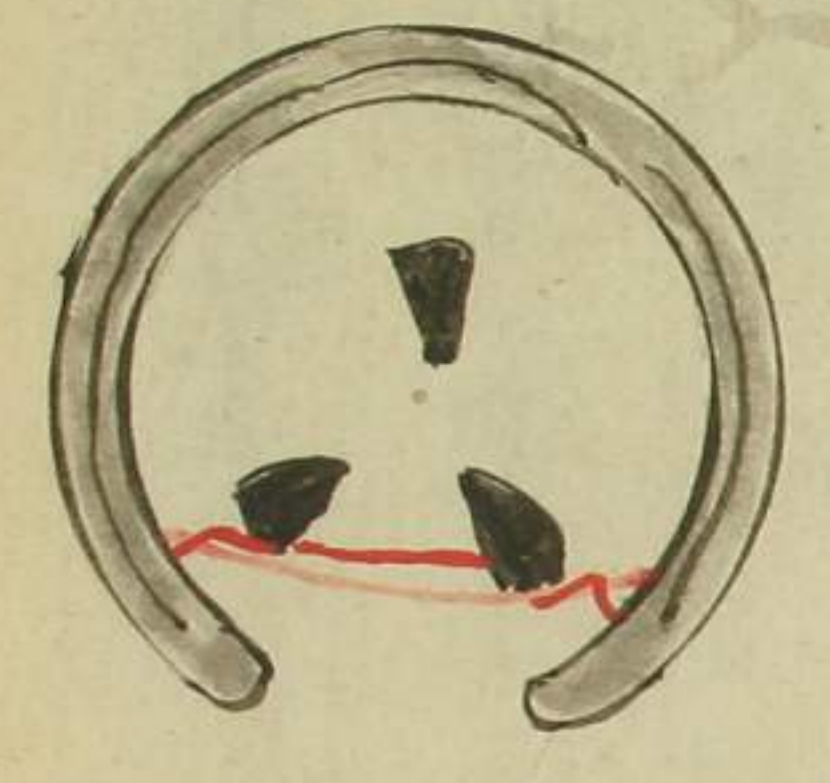
ち付しゆく一風長にちゆいも
 こ海やうよすち中少あり小風炸サラリトイフの
 大風炸ハ中少ありだてて山ろけ
 ぬけいふるすすしと傳ふし



小風長折後一尺二寸あり

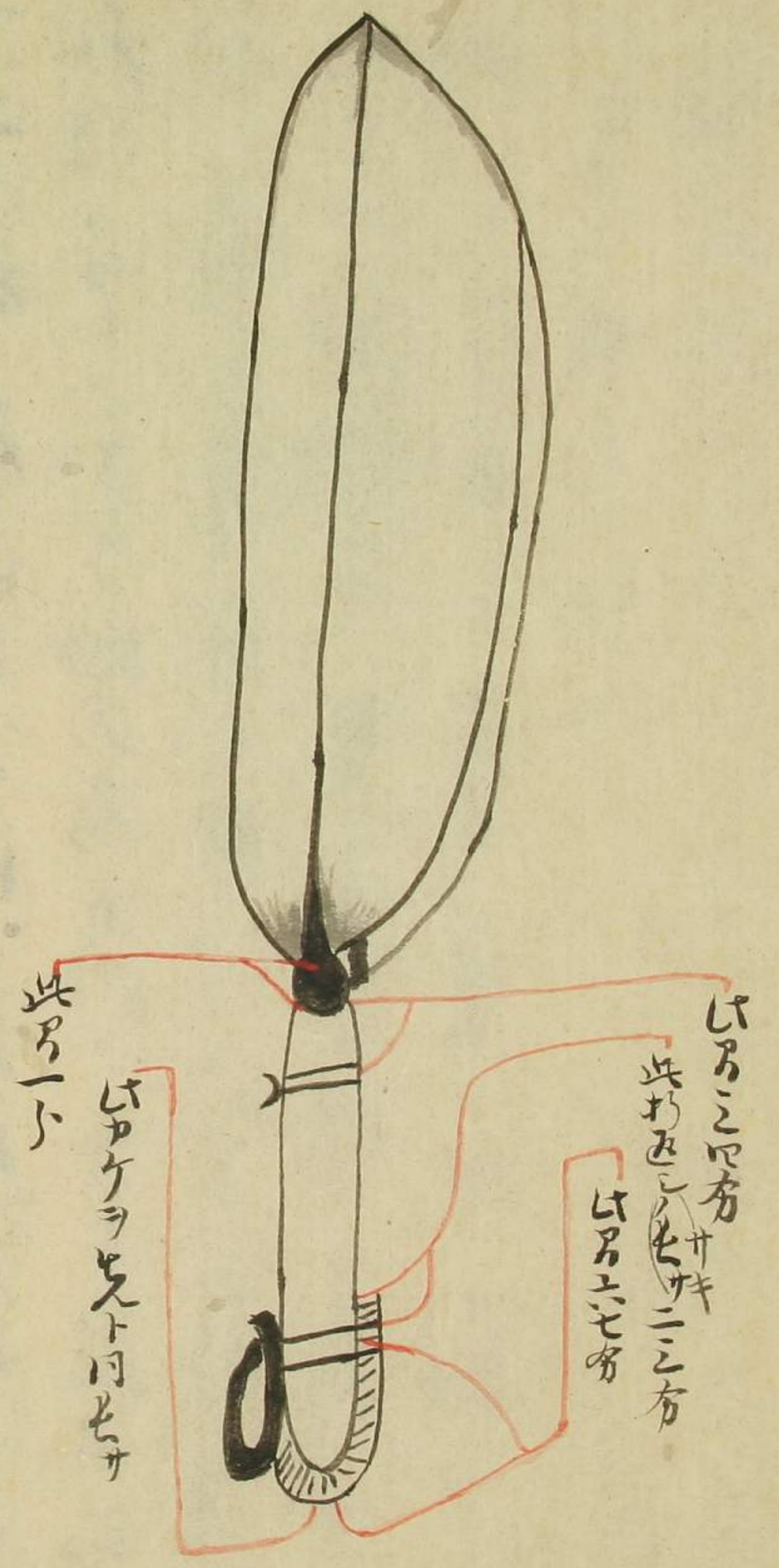
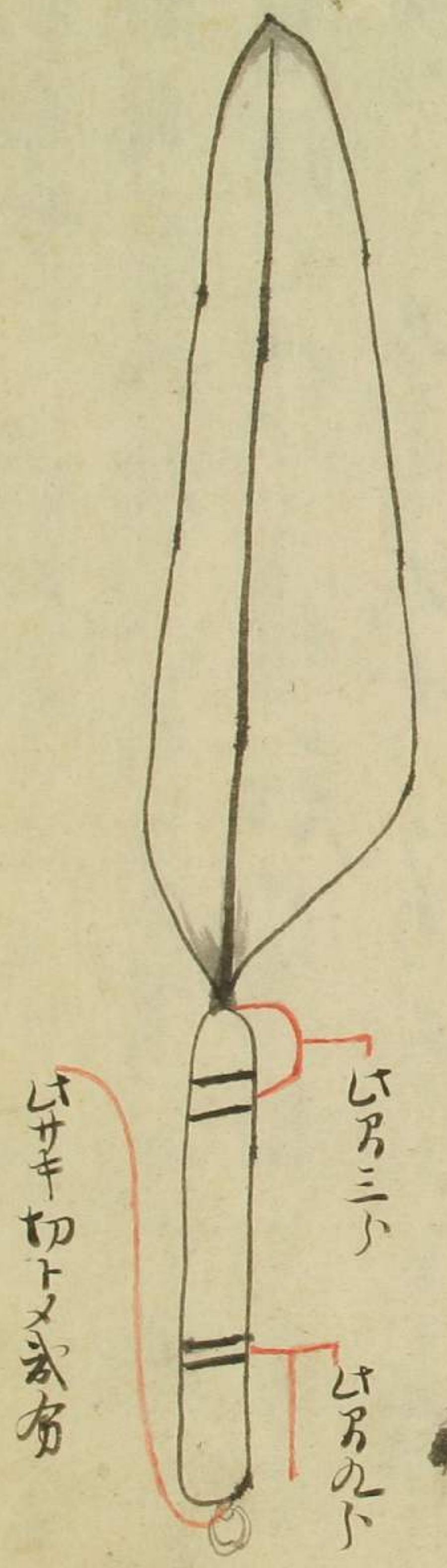


中風長折後一尺二寸あり



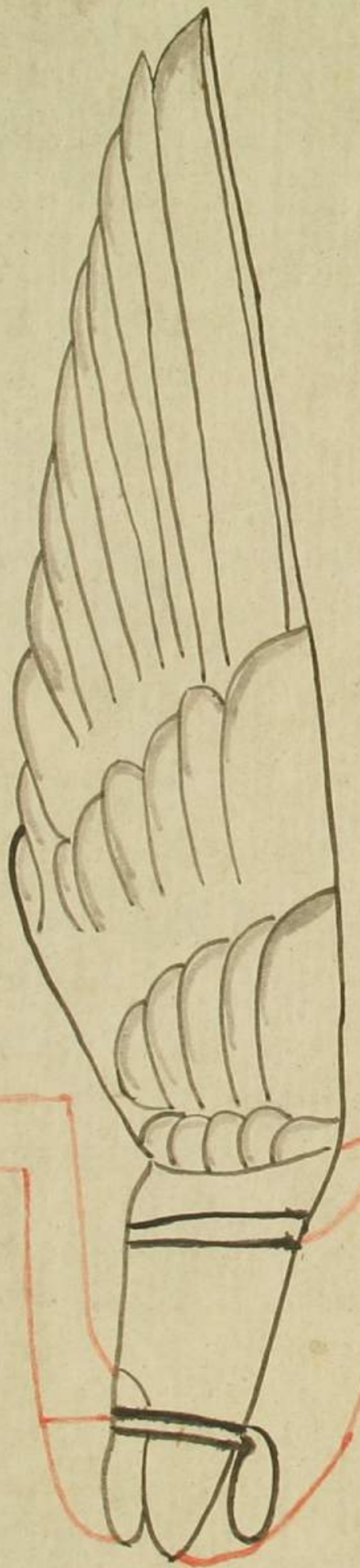
大風炸折後一尺二寸あり

一 是の羽帯ハ凡そ音由^多は此肩より口
 投月を長サ二つと同一ノ物也



けり四ノ
 此物五ノ物也
 けり六ノ
 けり一ノ
 けり七ノ
 けり八ノ
 けり九ノ

一 大羽帚の弦眼おくらきい火おねのた
 折目より此作りの月をよるき(サ^二ツ)の縄より二
 重結し竹の皮の切に漆をよる合点の
 ありし是も大ぶよりりの長短を
 有しや



此乃上方

カケ流サキト同也サ

けりすすわ方

けりた方

此二冊より一通の茶の湯成のりゆふと好ひ
魚の茶の湯の書おのきおらひを語るとい
西談のりゆふと好ひとあり何れもよくよく思ふ
一冊とて他見ると成る後一

谷直之と茶入教ありたりぬ指を茶の
茶入のりゆふのもの根多と見ゆゆの
まふとてしのおのりゆふとてありゆふ

此細集記二歌流ノ宗匠山根宗一ヨリ予ニ傳ルル
古本故虫教多通ニ於て依テ書寫可改ノル惜テ
文久元年酉年六月其後手入之スル者也

